

# TOTO

2016年 夏号

Toward a Creative  
Architectural  
Scene

# 通信



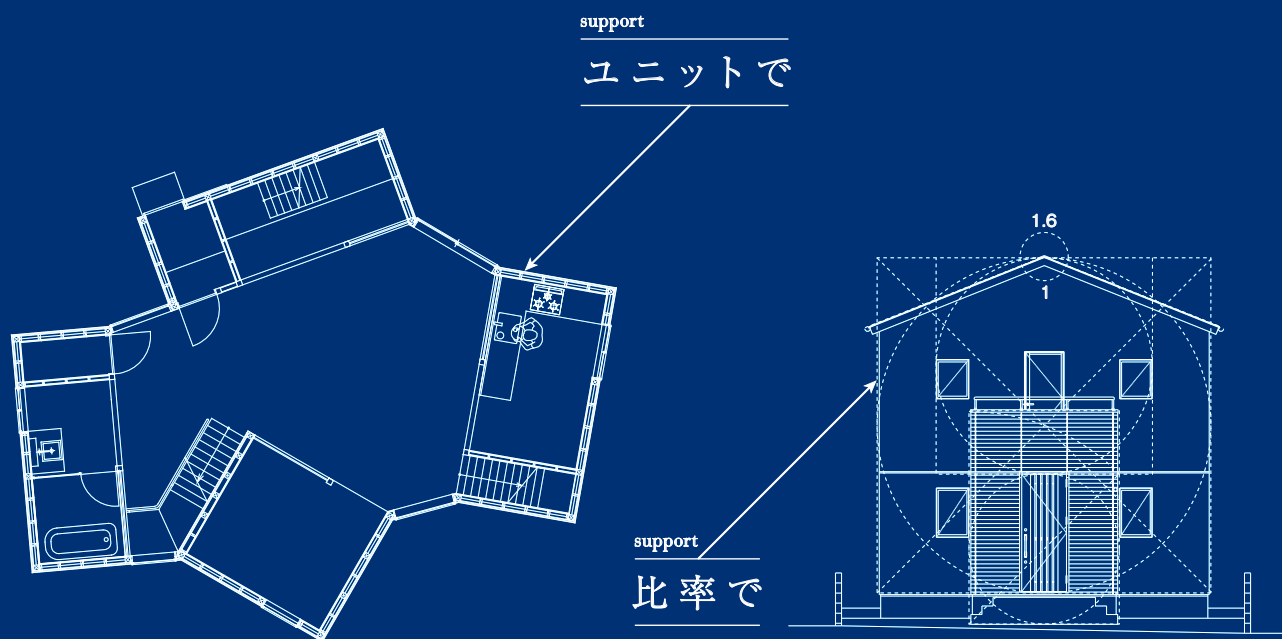
## 特集／建築サポート

— 建築家が主役ではない

Special Feature  
Architectural  
Support

# 築サポート

主役ではない



Case Study

3 Unfinished House

Case Study

4 HAUS-004

建築家の職能が、どんどん多様化している。たとえば建築家の作風で、建築の全体から細部までをつくり込むというより、施主自身がつくりたいものをサポートするようなあり方。躯体や基礎、寸法などの部分に特化して、技術や知識を提供することに、あくまで徹する。施主が主役、というのはあたりまえのようだが、施主の創意を引き立てつつも、建築家の作品としても仕上げるのは、それほど簡単ではないだろう。全体を揺るがす部分。そこには、どのような思想とシステムがあるのか。施主と建築家の両者に、話を聞いた。

## シリーズ

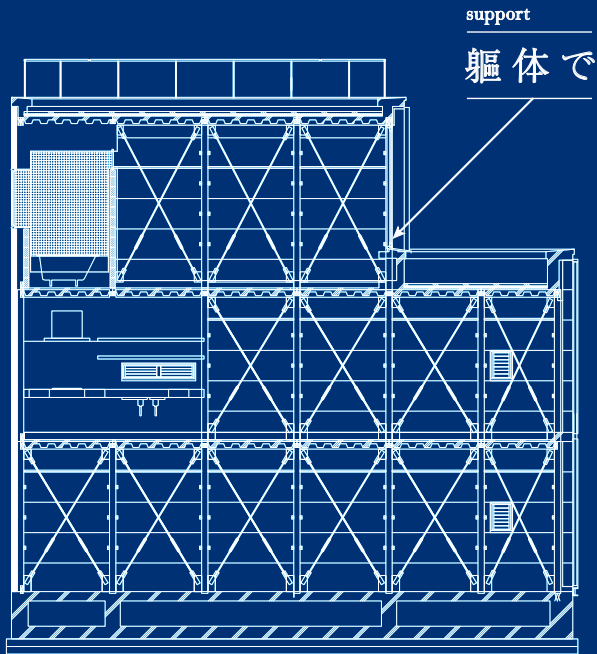
設計／内海智行	4
設計／増田信吾+大坪克亘	16
設計／山崎健太郎	28
設計／大室佑介	36

旅のバスルーム98	文・スケッチ／浦 一也 パ・フレオ(フランス・バルビゾン)	44
現代住宅併走34	文／藤森照信 「三層の家」 設計／中谷礼仁	46
最新水まわり物語40	東急プラザ銀座	52
地域に生きる会社70	ナレッジライフ	58
新商品開発物語	システムキッチン「THE CRASSO」	60
TOTOギャラリー・間で展覧会をします	スマイルハン・ラディック展 BESTIARY: 寓話集	64
News File	TOTO News, Cera Trading News, Books	66

# 特集／建

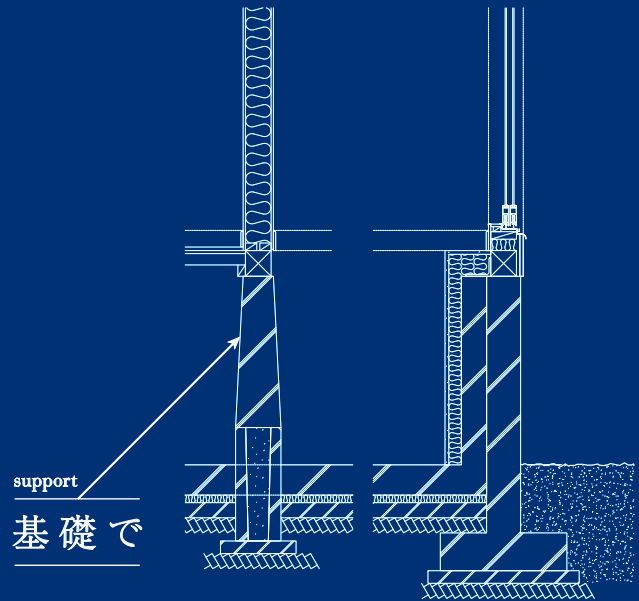
Special Feature  
Architectural  
Support

— 建築家が



Case Study

1 inner skin house



Case Study

2 Living Pool

## TOTO 通信

Toward a Creative  
Architectural Scene  
Number 511  
Summer 2016

特集／建築サポート — 建築家が主役ではない

ケーススタディ1 建築家が骨格、施主が皮膚 「インナースキンハウス」

ケーススタディ2 基礎だけで、全体を覚醒 「リビングプール」

ケーススタディ3 積み木のような、住人自身の家づくり 「未完の住まい」

ケーススタディ4 建売も、規律正せば、よいお家 「HAUS-004(桜台:建売住宅)」

「TOTO通信」を  
インターネットで  
ご覧いただけます。

→ [www.toto.co.jp/tsushin/](http://www.toto.co.jp/tsushin/)

作品

インナースキンハウス

設計

内海智行

## 建築家が骨格、施主が皮膚

住宅の骨格であるスケルトンを建築家がつくり、内装などのインフィルを施主自身に委ねた住宅。その「インナースキンハウス」のインフィルは、当初は取りはずし可能な布の膜でつくられていた。引き渡しから15年たち、施主のプロダクトデザイナー・北真吾さんの手によって、インフィルは何度も生まれ変わり、更新されている。



2階リビング・ダイニングの壁面。軽量鉄骨造(LGS)の躯体に、ベニヤ下地を張り、収納を設えたもの。入居から数年後に施主が自ら製作した。

1

Utsumi Tomoyuki



建築家

施主



Kita Shingo





インタビュー

建築家

内海智行

+

北真吾

プロダクトデザイナー

取りはずしのできるシステム

「インナースキンハウス」がつくられた経緯からうかがいます。

**内海智行** 北さんとは留学先の英国王立芸術大学院で知り合いました。彼はプロダクトデザイナー、僕は建築でしたが、そこでデザインについての意識は共有していたように思います。

**北真吾** まずオーダーしたのは、コンセントや備え付けの家具が後から動かせるような方法を考えてほしいということ。それからテイストはモダンにしてほしいと。イギリスというテイストとは様式のことですが、そこは話さなくても理解してくれました。

**内海** 小住宅の使い方というのは、時がたてば変わります。その読み取りを建築の設計側で用意しても、そうなるとは限らない。当時、施工ごとに変わる方向性を読み取って、その人に適応するユニバーサルスペースをつくらうとしていました。まずオープンにしておいて、それを

設計のプロセスを通じて施工と共有して、そのまま手放して渡す。そんなやり方を試みていた。僕は独立した当初からスケルトン・インフィルを意識していました。それでここでは、インフラは外部に、配管・配線やコンセントはいつさい埋め込まず内部に露出させています。

**北** 内海さんからは、1820mmピッチなどの寸法を提示されたのが大きかったですね。それを自分で把握すると、室内をいじることを考えるきっかけになる。

**内海** 北さんはプロダクトデザイナーでモジュールへの理解度が高いから、そこはすごく意識しました。また軽量鉄骨造では釘などが打てないので、「クランプ」という方法を開発して提案したんです。電設資材などの汎用品（クランプ、10ペ

ージ参照）をCチャン（C型鋼）の軀体に一次的に留めれば、二次部材はどうにでもなる。彼にカタログを渡すと、自分で注文しているのと同じくらいはじめた。

僕は住宅にかかわる以上、ユーザー主体だという気持ちはずっともっていたんです。分離発注のインフィルを目指すなかで、内部に布のフィルター（12〜13ペ

ージ参照）を足してみようと思いついた。ただデザイナーだから、布がピンと張つてないと納得しない（笑）。

**北** デコレートの部分は引っ掛ければいいというのは、なるほどと思いました。全体の布も簡単な工事ではずせるという安心感がありましたね。

**内海** 建物を使いこなす知識とか、軀体と生活との関係性を自分で調整する知識が、ユーザー側にストックされるのが大事だと思うんです。今の社会は、ハイスペックな商品を与えられ、それをそのまま消費していくシステムです。そういうことへのアンチの気持ちが強かった。北さんには、内部を変えていく具体的な方法を伝えつけてきました。

「インナースキン」のシステムも、クランプと同じように、指でひねって留めるわけですね。

**内海** 蝶ネジで簡単に調整可能なものになりました。仮付け↓調整↓決定というプロセスを繰り返す。飽きたら変えてしまえばいいんです。

ユーザー主体で住宅をつくる時、施工主とのあいだに培った信頼関係があつて

「深大寺の入れこ」

2006年



外観



引き渡し時



現在

外殻をつくった後、入籠のように内部の居室を独立した別構造で完成させた住宅。内部に不確定要素が多かったため、先に外殻をつくり、別々に「段階供給」した。引き渡し後も、施工主により内側の構造や内装が更新されている。

「建物を使いこなす知識が、ユーザー側にストックされることが大事だと思うんです」  
建築家

Utsunomiya Tomoyuki

Kita Shingo

「寸法や施工方法がわかりやすく、  
躯体も丸見えで  
ブラックボックスがないから、  
住宅を自分で考えることができます」

施主

初めて、対等な立場としてコンサルテーションやマネジメントができます。  
北 内海さんとは学生時代からの信頼関係があったので、わりと安心して任せていました。お互いに言いたいことを言っ  
たし。それで住んでみると、内海さんの  
考え方が全部わかってきた。

## 躯体で 信頼を得る

——施主との信頼はどのようにやってつくり出  
すんですか。

内海 僕の住宅づくりは「段階供給」と  
いう方法をとります。

まず周辺のコンテキストを読み込んで  
ボリュームを与え、躯体をつくる。イン  
フラに直結した設備も取り付けます。そ  
こまでが「一次供給」で、工務店の見積  
もりを分け、完了検査を受けます。僕に  
とってそれが建築の完成品です。

その後の「二次供給」、インフィルは多  
様化した「好みの編集」になります。設  
計者には解決不能な問題をはらんでいる。  
それは施主の趣味によって時間をかけて  
つくるべきなんです。もちろん引き続き  
設計することもあれば、北さんのよ  
うに自ら手を加える人もいれば、別のイ  
ンテリアデザイナーが入ることもある。  
施工会社を替えることすらあります。建  
築家は個別のファクションとか○○風と  
いうのを嫌うけど、みんな等価だと思っ  
ているんですよ。建築には内外一致の原  
則に伴う美学がありますが、僕はそれを  
プロセスごと切り離します。

### 内海智行さんによるスケルトン・インフィル住宅

## 「Wall of Verge」

2014年



外観



引き渡し時



現在

放送作家の施主が住む住宅。鉄筋コンクリート造の躯体（スケルトン）だけの状態で施主に引き渡し、内装はすべて施主自らが分離発注によって施工した。好みが強反映される内装は施主に委ね、建築家は躯体に集中する、という設計手法。



南側外観。施主自身によるメンテナンスは頻繁に行われ、撮影時にも足場が掛けられていた。



ダイニングのカウンター  
の天板を持ち上げると、  
デスクになる仕掛け。施  
主によって製作された。

——そういう立場を担保するのは、説得力のある「箱」ということでしょうか。

**内海** そう、設計者はやはり躯体で信頼を得ることで。だから技術者としての側面は譲れないし、頑固にもなります。

——それはプロダクトデザイン的にはどうですか。

**北** こちらの世界から見ると内海さんの考えはあたりまえのことなんです。むしろ3Dプリンタやファブラボにより、プロダクトデザインがマスから一品へと建築的になっていく可能性もあります。

## ユーザーの共感を 育てていく

——内海さんの設計のプロセスは、他者にもはっきりと見えて、施主もチームのひとりとしてとらえている。

**内海** 参加型というのは、共感をどこでつくりあげるかというプロセスの問題なんです。いろいろな言葉を投げかけて、相手の関係性のなかに割り込み、共感を育てて、一緒につくっていきます。

そのプロセスで一番難しいのは、施工者に信頼されることです。そのためには、ものをつくっていくプロセスをきちんと制御し、マネジメントができなければなりません。オーケストラの指揮のようにマルチタスクが必要です。それを若い人に伝えたいと思います。

**北** 内海さんは現場の職人さんたちと僕を会わせようと思いましたよね。工務店の親方とは15年のお付き合いになり、この家を知りつくしている。親方と僕で2年に1度くらいはどこかをいじっています。

それはすごくありがたかった。  
**内海** 最終章では、施主と施工者が懇意になるように仕掛けていくんです。そして設計者はフェードアウトする。書類だけでなく人間関係も引き渡しをします。

——最近、中古マンションのスケルトン渡しの価格が高騰しています。がらんとした状態で売るのがはやっていいですよ、という状態で売るのがはやっていいようですよ。

**内海** 流行ではなく、その価値観を大切に  
する世代が育ってきたのだと思います。





テレビを見る施主の北真吾さん。北さんは、東洋大学人間環境デザイン学科准教授。内海智行さんと同じく、英国王立芸術大学院修了。専門はプロダクトデザインで、携帯電話のインターフェイスデザインなどを手がけてきた。壁のテレビは角度を調整できるように北さんが製作した。





写真上／2階リビングの窓やコンセントのために、ベニヤ下地に穴があげられた。写真中／1階トイレ。この部屋は、躯体を現しにしたスケルトンの状態。



1階書斎。クランプによって躯体に直接、棚が取り付けられている。

**北** この家も内部に壁がないので、丸見えだけど安心感がある。スケルトン渡しもブラックボックスではないから、同様に感じるんじゃないかな。

**内海** ここは設備の引き回しが視覚化されているけど、そういう物理的な関係性と向き合ってこそリノベーション文化が育っていくのだと思います。

**北** 今「Make」という自分自身によるものづくりのムーブメントがあって、日本でも若者を中心にイベントが開催されています。ところが本家のサンフランシスコなどを見ると、それは町の発明家たちによる祭典なんです。アメリカには自分でつくれる人は偉いというカルチャーがある。DIYの店にしても、あちらでは家を建てられそうな材料と工具が置いてあります。

**内海** 日本人は細部のこだわりが強い一方で、空間をどう使うかのリテラシーは発展途上です。でも若い世代はだいぶ変わってきました。今後はユーザーが施工の技能者と直接結びつくようになると思います。

## 人の喜びに貢献する デザイン思考

——そうしたつくり方は、オフィス併用住宅などビルディングタイプにも関係しますか。

**内海** 僕は共同住宅を多く手がけています。資産や土地の分筆などにかかわるマネジメントも自ら行うし、近隣の土地売買のアドバイスもする。そうやって職域が広がることで、従来の建築家像は変わ

っていくと思います。デイベロップ的な仕事もデザイン思考が問われますから、たとえば隣家を束ねて街の一角を変えるようなことでも、ものをつくる主体性を超えて、果たせる役割が多くあります。——いろいろな情報をもっていて、地域の不動産屋さんみたいですね。

**北** 大学で教えていると、ものをつくる能力が神話的になってしまい、造形力を高めることを学習するのは難しいと感じます。内海さんのいう不動産などは複雑なビジネスの世界ですが、努力して実践すれば経験として身に付いていきますね。

**内海** コミュニティやまちづくりも、結局はひとりの喜びに貢献するデザイン思考を社会にどう役立てるかの問題だと思います。顔の見えるユーザーを含め、そうした具体的な周辺をとりまとめる実践

力のある建築家が、社会的な存在として肯定されることを望んでいます。



C型鋼に取り付けられたクランプ。

写真提供／ミigramスタジオ



3階寝室。壁面収納は、棚などの追加や組み替えが容易なヴィツウ社の「606 ユニバーサル・シエルビング・システム」。

Special Feature  
Architectural  
Support  
Case Study

1



↓2階キッチン。壁面収納とキッチンカウンターは連続している。



# 引き渡し時の「インナースキンハウス」

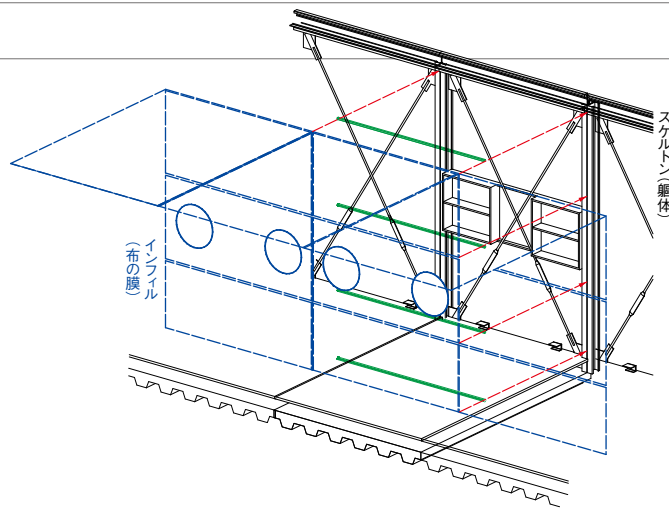
12～13ページの写真／平 剛(12ページ下段の右から3番目の写真を除く)



引き渡し時のリビング・ダイニング

分離可能な内装が目指され、左右の壁は布の膜でつくられていた。円形収納などが特徴的。

ダイアグラム



スケルトンの軀体に、インフィルの布の膜が取り付けられる構成。この膜は、内海智行、若林秀和・晶子、太陽工業によって共同開発された。

その後の改修

引き渡し時



2階ダイニング

引き渡しから数年後、右手の布の膜がとられ、スケルトンに戻された。



2階リビング

リビング側の黄色い布(13ページ参照)もとられ、筋かいが現しに。



1階玄関

玄関の扉脇は、ゲストルームになるように、畳敷きに改修された。



1階玄関

右手に玄関。扉脇には自転車も駐められる土間の打ち合わせスペース。



3階寝室

3階寝室。壁の膜はクッションのようにやわらかい素材でできている。



引き渡し時のリビングの壁面。円形は、巾着型の収納。布同士はファスナーで連結させている。

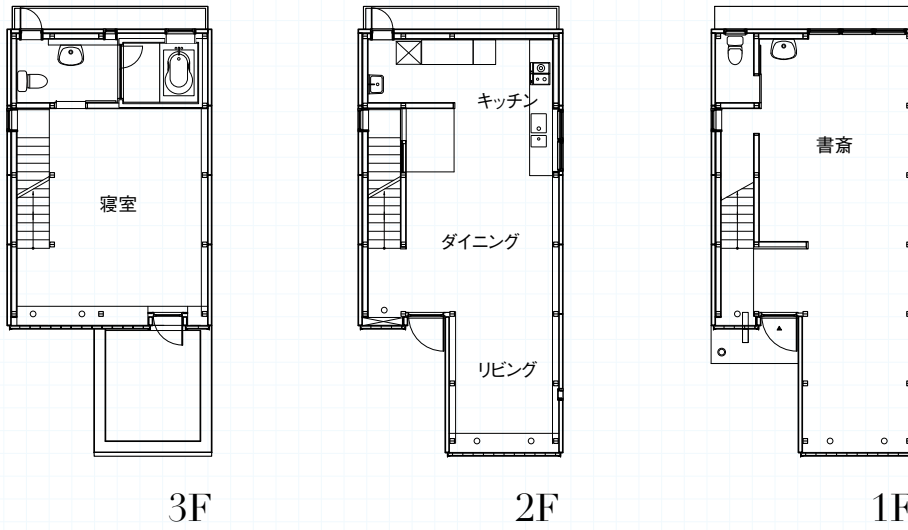
引き渡し時のインフィル(布の膜)

# 平面図 (インフィルがないスケルトンのみの状態)



0 1 2m

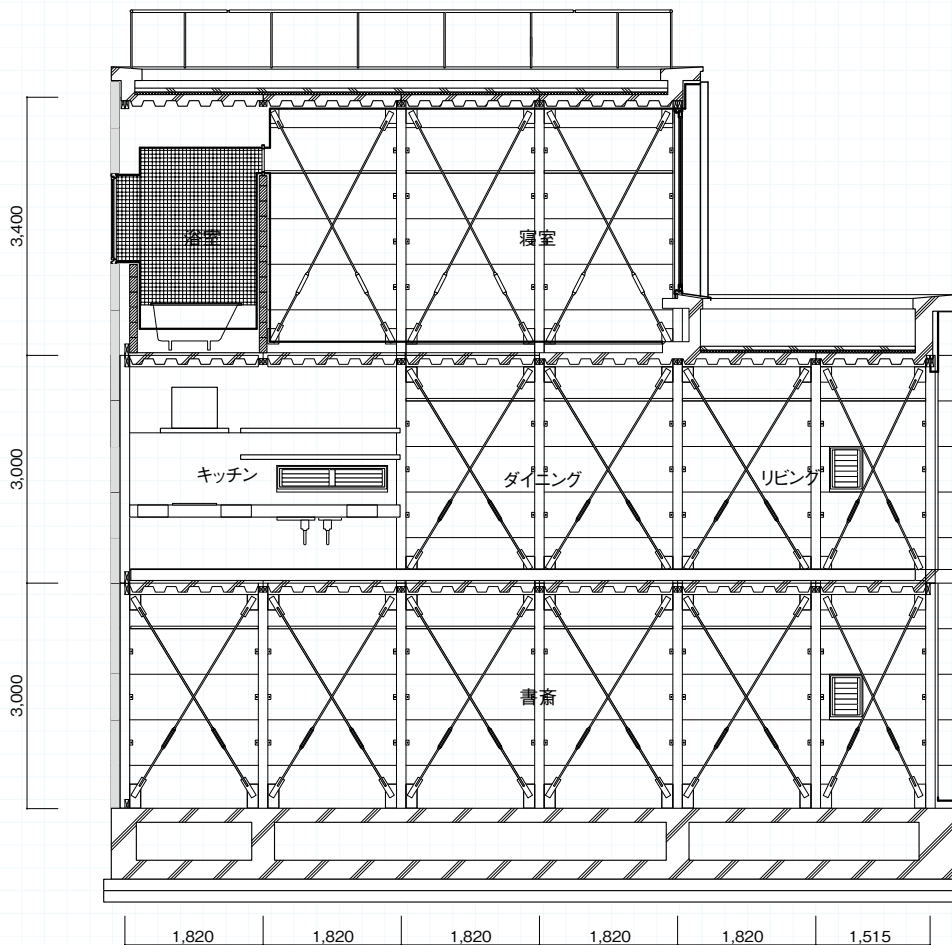
1/200



# 断面図 (インフィルがないスケルトンのみの状態)

0 1 2m

1/100





T字路の突き当りに立つ「インナースキンハウス」。

## 「インナースキンハウス」

建築概要	
所在地	東京都渋谷区
主要用途	専用住宅
家族構成	夫婦
設計	内海智行／ミリグラムスタジオ
構造設計	構造設計舎
構造	軽量鉄骨造
施工	辰
階数	地上3階
敷地面積	83.60㎡
建築面積	47.60㎡
延床面積	132.00㎡
設計期間	2000年1月～2000年6月
スケルトン工事期間	2000年10月～2001年2月
インフィル工事期間	2001年3月～7月

おもな外部仕上げ	
屋根	コンクリート金ごて押さえ 硬質ポリスチレンフォーム t=35mm シート防水
外壁	軽量発泡コンクリートパネル (ALC) t=100mm シーラー塗布 目地消し セメント系左官薄塗り仕上げ
開口部	スチール建具 SOP

おもな内部仕上げ	
2階	
床	パインフローリング t=20mm
壁	ALC露出 シーラー塗布 合成樹脂塗装
天井	デッキ素地 SOP
3階	
床	パインフローリング t=20mm
壁	ALC露出 シーラー塗布 合成樹脂塗装
天井	PB t=9.5mm AE



Utsumi Tomoyuki

## 内海智行

うつみ・ともゆき／1963年茨城県生まれ。86年多摩美術大学美術学部建築科卒業。91年英国王立芸術大学院修了後、筑波大学大学院修了。91～92年 Derek Walker Associates。92～97年大成建設設計本部。98年ミリグラムスタジオ設立。おもな作品＝「中野坂上の住宅」(2004)、「深大寺の入籠」(06)、「Belvedere『遠望の週末住宅』」(08)。

まとめ

## 変化を繰り返す「考える箱」

文／豊田正弘

書斎を内蔵した軽量鉄骨造の住宅は、私鉄駅前の商店街を抜けた先にあった。プロフィリットガラスとALCパネルの端正な立面を見せて、さりげなくたたずんでいる。ところがその内部にはさまざまな驚きが待っていた。

竣工後15年となる建物の名は、布の膜、つまりインナースキンでインフィルを覆ったことに由来する。円形の開口、巾着型の収納、ファスナーなどをもつカラフルで愛らしい表情が印象的だった。しかし今はその膜はない。内海智行さんの構想したユーザー主体の住宅は、きわめてアクティブなプロダクトデザイナーである住み手・北真吾さんにより、さまざまな手が加えられて現在に至っているのだ。つまりインナースキンの構成は、この家のある時期における一断面を伝えるにすぎない。

たとえば2階リビングの膜パネルははずされ、壁に12mm厚のベニヤ下地を張って、1,820mmの躯体スパンに合わせた収納システムが取り付けられた。キッチンカウンターと連続する跳ね上げ式のデスク、1階につくられた和室、クランプ間に渡した天井照明、各所に設けられた棚など、その試みは数知れず。そこには、施主自らが材料を購入して製作したもの、半製品のシステムを導入したもの、職人によるオーダーメイド品などが、シームレスに共存している。時間を経て落ち着いた、しかしとてもカジュアルなデザインセンスがこの住宅全体を満たす。「ケーススタディハウスのような大量生産された中流階級の住宅。それを知る人でないと使いこなせない」と内海さん。

内海さんによるスケルトン・インフィルの方法は、「中野坂上の住宅」(2004)、「深大寺の入籠」(06)などで多彩な表情を見せて展開していく。それはシステムの合理性を追求ものではなく、各ユーザーのライフスタイルを力強く後押ししているもののように感じられる。

「インナースキンハウス」は、1階土間に床を張った「老後仕様」を計画中と北さんは言う。設計者と施主との幸福な信頼関係に結ばれたこの住宅は、さらなる変遷を続けていくにちがいない。

作品

リビングプール

設計

増田信吾+大坪克亘

## 基礎だけで、全体を覚醒

平面は施主が考え、施工も施主が手配。建築家が担ったのはおもに基礎だった。基礎だけのサポートとはいえ、湿気対策や断熱性が補強され、窓からの景色も一新。全体を揺るがす、部分の設計である。





2

Masuda Shingo



建築家



施主

Ishiyama Kazuhiro

Otsubo Katsuhisa

LDK。「リビングプール」  
は既存家屋の改修。床を  
取り除き、基礎のプールの  
ような部分に住まうア  
イデアでつくられている。



北側にあるアトリエ。壁に掛けられた作品を制作しているのは施主の石山和広さん。石山さんは武蔵野美術大学卒業後、東京藝術大学大学院を修了。増田信吾さん、大坪克亘さんとは学生時代からの知り合いだった。舞台美術や平面芸術などさまざまなアーティスト活動を展開している。

床下に隠れているはずの基礎。  
それがあらわになり、  
生活を包み込む器になっている。

床がはずされ、床面が  
928mmほど下げられた。  
もともとの床レベルにあ  
る廊下や寝室などは、コ  
ンクリートの束に支えら  
れている。束は既製品。



## 風力発電が つなげた出会い

——増田信吾さんと大坪克亘さんの前作「躯体の窓」は『TOTO通信』2015年新春号に掲載されています。その記事によるとふたりは大学入学の前から知り合いだったそうですね。

大坪克亘 大学入試のための予備校で知り合って、それ以来、大学は違ったけれど付き合いはずっと続いて今に至って

ます。この住宅の施主の石山和広さんは増田と大学の同窓で、2年上の先輩になります。

——石山さんは武蔵野美術大学の建築学科卒業後にアートに転身したんですね。石山和広 建築学科には美術家で建築やアートの領域を超えた視点からの表現を追求している土屋公雄先生がいらして、私はそのゼミに属して卒業制作は映像作品を提出し、それから東京藝術大学の大学院に進学しました。

——石山さんと増田さんとは学生時代か



↑既存の床レベルにある廊下。右にアトリエ、左にLDKがある。

↓廊下の奥にある寝室からカーテン越しにLDKを見る。



施主

建築家

石山和広

アーティスト

+

増田信吾、大坪克亘

ら面識があったのでしょうか。

石山 ええ、知り合いです。私が大学院のとき屋久島に旅行に行って、宿で出会った人が風力発電会社の社員さんでした。その人から風力発電の建設地の模型とプレゼン用の映像をつくってくれないかと頼まれて、映像は自分でするとしても模型はすぐ大きいので助力が必要だと思います、彼らに声をかけました。

増田信吾 5000分の1で畳2枚分くらいの模型。できればよかったのと、工程をしっかり立てて納期を守ったので





LDKから廊下を見る。夏季は基礎部分に冷気が溜まり、冬季は蓄熱床暖房により暖気が立ち上る。

## — 天童に制作拠点を

— 石山さんが山形県天童市に移住され

— そういえばデビュー作「風がみえる小さな丘」(2008)の施主もその風力発電会社でしたね。  
 大坪 そう。風力発電つながりです(笑)。  
 — 屋久島の出会いから発したすばらしいパトロナージュですね。

「解決すべき場所は基礎だと確信し、そこに集中する提案をしました」  
 建築家

Ishiyama Kazuhiro

Masuda Shingo  
 Otsubo Katsuhisa

「依頼したときは、設計は全部丸投げのつもりだったのに(笑)」  
 施主

た理由は何でしょうか。

石山 2010年に奨学金を得て制作に専念できる環境になったのを機会に、活動の拠点はどこでもよいと考えていたのですが、実家のある山形に移ろうと思いましたが、しばらくは妻の実家にお世話になっていたのですが、散歩をしているときにたまたまこの場所を通りがかり、とても気に入りました。

— 気に入ったのはどの点ですか。

石山 市街地の一画でありながら、北側に小高い山があつて、その裾野に包まれるような敷地で、平坦な郊外地や田んぼのなかとはい違い、複雑で多様な地歴がありそうなどころでしょうか。

— それで築40年の凡庸な平屋建ての住宅を改修して住むことにしたのですね。

石山 改修自由という条件の賃貸です。この辺だと、親の敷地の一面に新築住宅を建てるか、郊外住宅地の建売を30年ローンで買うか、どちらかが一般的な選択肢で、選択肢の少ない現状に違和感というか苛立ちがありました。新築も建売もローンもいやで、何かほかの住まい方がないかと。

— その考えに合うものがあつたわけですね。自身が主体になって施工する前提で自分でプランニングもしたそうですね。  
 石山 費用の面から外まわりは原則いじらず、内部の改装だけに絞ることにして、プランニングというより、ゾーニングを考えました。水まわりは動かさない。でもキッチンだけは北側では暗いので南に移してLDKとし、キッチンがあつたところを寝室にする。するとアトリエは必

アトリエ。石山さんの制作中の作品が置かれている。布基礎の立ち上がりの内側には断熱材を施し、補強をしている。



基礎

←コンクリート束の基礎。廊下の床下は吹放しで、LDKとアトリエが繋がっている。

然的に北東になって光線の具合もよい。そこだけは床を下げて天井を高くする。模型もつくりました。

——筋が通っていて具合がよさそう。なぜそのまま実施しなかったのでしょうか。

石山 自分の計画そのままだと仕上がりのイメージがすぐに浮かんできてしまっただけで、単純につまらない。すべてが想定内に納まってしまいうので、どこか限界があると思いました。もっと自分が知りえない姿があるだろうから、それを求めたいと思いはじめて、旧知の彼らに設計を依頼しました。遠いし、忙しそうだし、断られてしまうかもしれないと思っていただけ。

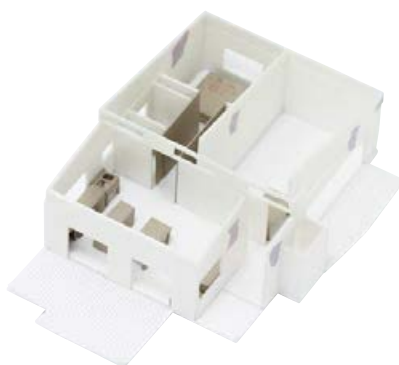
増田 断らないですよ。なんらかの方法で、手伝いたかった。

## 増田・大坪は「基礎」に集中

——設計を引き受けてどうでした。大坪 いろいろとプランニングしてみた、何かやろうと意気込むとどこかひねくれた案になってしまう。あらためて石山が持ってきた模型を見ると、すごく素直で、生活像がしっかり反映されていて無理がない。それをわれわれがどうこうする話ではないと思うに至りました。

模型

施主の石山さんが自ら製作した模型。増田さんと大坪さんに設計を依頼する前から構想していた。この平面には無理がなかったため、そのまま採用され、湿気防止や断熱補強などの観点で、増田さんと大坪さんは基礎の設計に集中した。



アトリエの窓。床面が下がり、視線の位置が低くなったことで、軒先に遮られていた山の風景が見やすくなった。



Special Feature  
Architectural  
Support  
Case Study

2



→LDKの幅木。アトリエやLDKの基礎上部には、元の床面を示すように幅木が取り付けられている。



幅木

——そう悟った段階で、方向性が決まったわけですね。

増田「躯体の窓」の場合もそうで、施工に教えられることは本当に多いです。それによってわれわれの立ち位置が明快になります。試行錯誤の末、今回は石山のプランを利用したう

えで、実際の問題をひとつずつ解決していこうとしました。まず室内の暗さを解消するために天窗をつける、開口を大きくするなどの提案があったのですが、そうするとプライバシー、暖房負荷、施工性などに難点が生じてしまう。つまり問題をひとつ解決するために別の問題を発生させてしまう。それは避けたい。それと既存の基礎を見ると、湿気の防止や断熱性能の点で放置できないと思いました。これらを考えあわせると、既存の外周の布基礎を生かしつつ、床全体を下げてしまるのが最もよい解決だと確信して、全体を既存の床面から928mmほど低くする提案をしました。

大坪 そうすると視線の位置が低くなり、既存の掃き出し窓が大きな腰窓に転化し、軒先にさえぎられていたまわりの山の情景が内側に入り込んできて、内外の隔絶感が薄まります。また、外に立つ人からすると窓から中を少し見下ろすようになって、その関係性もよいと思いました。——

いわば断面に特化した設計といえます

すね。

石山 彼らはLDK、アトリエ、寝室の部分、つまり床を沈ませて幅木をまわした内側、そこは図面を描いてくれたけれど、そのほかの玄関、トイレ、洗面所・浴室はノータッチ。いつ図面が来るかと待っていたけど、いつまでたっても来ない。依頼したときは、設計は全部丸投げのつもりだったのに(笑)。

増田 持ち物の大きさ、整理の仕方、使い勝手は石山のほうがわかっているのだから、自分たちでやっていると(笑)。

石山 そうか、幅木の内側だけなんだ、割り切りがよいなと思いました。でも玄関は床の高さとか天井とか、後から図面を描いてもらいました。ドアはどうだったかな。

増田 そこは描きましたよ(笑)。

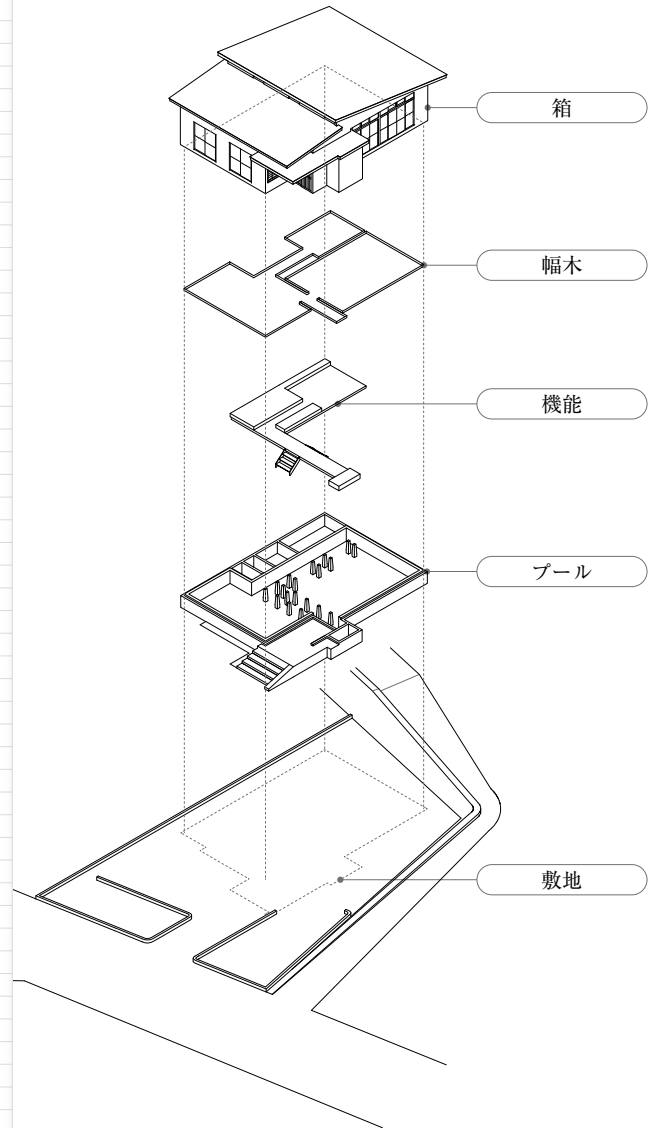
石山 でもそれがよかった。丸投げにしてしまうと、建築家にただのコーディネイターとしての役割をお願いしてしまうところでした。施工するのも住むのも自分だから、全過程を通して人任せではなく主体的にコミットすべきだと気が付きました。

## 自分で施工する ところも

——そして施工の段になって、分離発注は大変だったでしょう。

石山 小学校からの友人が電気屋で、大工さんなどを紹介してくれ、そこからいろいろつながりました。左官屋さんだけは東日本大震災の復旧の影響で、なかなか

## ダイアグラム



改修後の構成を示したダイアグラム。幅木より下は、廊下や寝室などの機能の部分を除いて、床を取りはずし、生活の「プール」にしている。

が見つからなかったけれど、それ以外は苦労がありませんでした。何が大変だったかという点、基礎の穴掘りでした。重機を入れると窓を壊さなくてはならない。そこまではしたくなかったので、全部人力でやりました。ひとりでは無理で、幼馴染と東北芸術工科大学の学生に助けをもらい最後は6人がかり。

——出身地のネットワークが十分に機能したわけですね。

**石山** 床は鉄筋を組み、蓄熱用の配線をし、モルタルを流すまで左官屋さんをお願いし、壁や床は大工さんと一部は共同作業しながら自分でやりました。

——杓石の施工も業者がやったのでしようか。

**大坪** あれは既製品で、下の直方体のパーツと上の角錐状のパーツを現場で組み合わせ、鉄筋を入れ、モルタルを詰めて合体しています。安価だけれど北海道の工場製品なので輸送費のほうが高くつきました(笑)。

**石山** その施工は自分たちがやったらほとんど本当に大変でした。大引きを持ち上げて既存の杓石を撤去し、レベル調整して新しいものをセットして元に戻す。1日1本というペース。全体では3カ月で済ませるはずが10カ月かかってしまいました

た。でも作業の大変さより、とにかく住めればよいと初めは思っていたのが、増田と大坪のふたりがここまでやってくれるのだから、たとえば塗装仕上げにしても丁寧にしてよとか、だんだん求めるレベルが上がってきて、それで予想以上の時間がかかった面が大きい。

**増田** 石山がレベル調整で苦労していることを知った段階で、それまでは考えていなかった幅木をまわすことにしました。布基礎の立ち上がり部分の内側に補強としてコンクリートの増し打ちをして、その上に幅木を全周まわしています。奥さんが掃除しやすいことを第一条件に挙げ

ていたこともあったから、現実的な選択としてもよかったと思っています。

——布基礎の増し打ちと幅木が、沈んだ床面が形成する空間に一体感、連続感をもたらしていて、とてもよいですね。いかにもプールの名称がふさわしい空間になっています。冬を2回越して、住み心地はいかがでしょう。

**石山** 夫婦と子どもふたりが生活するうえで支障はまったくなく、とても満足しています。何より明るいし、どの場所においても気持ちがいい。床暖房もちょうどよい感じですよ。これから手を入れるとしても内部ではなくて、外側の屋根の塗装





東側外観。正面にアトリエの窓。もともとの掃き出し窓が腰窓になった。

とか網戸の修繕などを考えています。

## 共同設計の 次のステージ

——ところで増田さんと大坪さんが共同で設計している状態は、石山さんからはどう見えますか。

**石山** 相互に壁になって、ボールを投げると投げ返されてくる。それは正直、うらやましいですね。ひとりでやっている、自分の思考をどうやって展開させ、確認していくのが難しい。今は思ったことをメモに書き、繰り返し読み返すことが、思考の回転の契機となり、インスピレーションが生まれ、製作に移行する動機になるかと思っ実践しています。

**増田** 大坪と一緒にやっているのは、思考にしても実践的な解決にしても自分のなかだけで閉じてしまいたくない、という気持ちがあるからです。趣味性に陥りたくない、あるいはゆがまずにバランスをとりたいというのかな。

**大坪** プロジェクトが進行しているとき、どちらかが何かおかしいと気が付いたら即座に軌道を変えることができます。それはふたりが対等の関係にあるからできることだと思えます。でも最近は出入りする人が増えたり、忙しさが増したりして、当初とは少し変わってきています。前は双方がわかり合うまで膝を突き合わせて最後まで詰めることが自然にできて

いた。最近は少し違ってきているように思います。

**増田** そうだね。すべてをわかり合っていない状態のまま、プロジェクトを進めざるをえない場面が、少しずつ出てきています。われわれはどちらも事務所に勤めた経験がないから、スタッフとの接し方がわかっていないのが、もしかしたら原因かもしれない。

——仕えた経験がないから、あつかい方がわからない(笑)。

**石山** ふたりで長くやっている、知らぬ間にふたりだけで通じ合うコミュニケーションのコードというのか、思考のプロトコルというのか、そういうものが出てきて、外からいきなりそこに入り込んで、意図をくみ取っていくことは難しいのではないかと思います。

**大坪** ふたりで長くやりすぎたかな。

**増田** いや、あまりくみ取ってくれなくてよいんです。普通に考えて、ストレートに伝えるところなるという提案をしてくれればよい。でもなかなかそうならない。われわれはそれぞれの生活の身近な経験の延長線上に設計行為があればよいと思っけるけれど、多くの人はそこから遊離して設計行為をとらえているように、不思議だし、歯がゆく思うときがありますね。

**石山** なるほどそうなんだ。スタッフができて、ふたりの事務所も次の段階に差し掛かったのかな。楽しみにしています。



# 断面図

0 1 2m

1/200

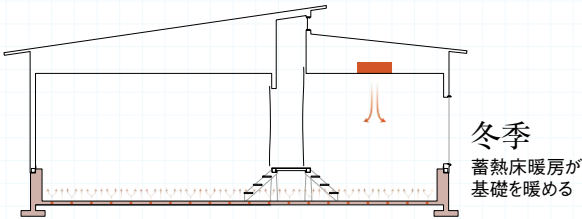
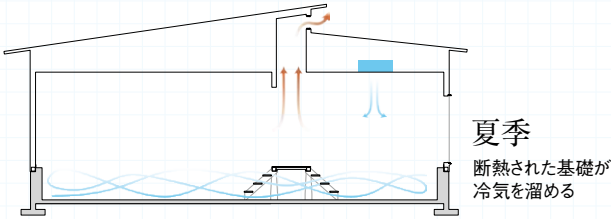
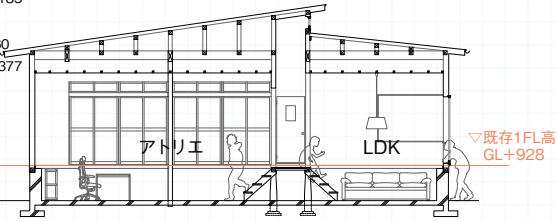
▽最高高 GL+5,185

▽軒高 GL+3,960

▽天井高 GL+3,377

▽GL+850

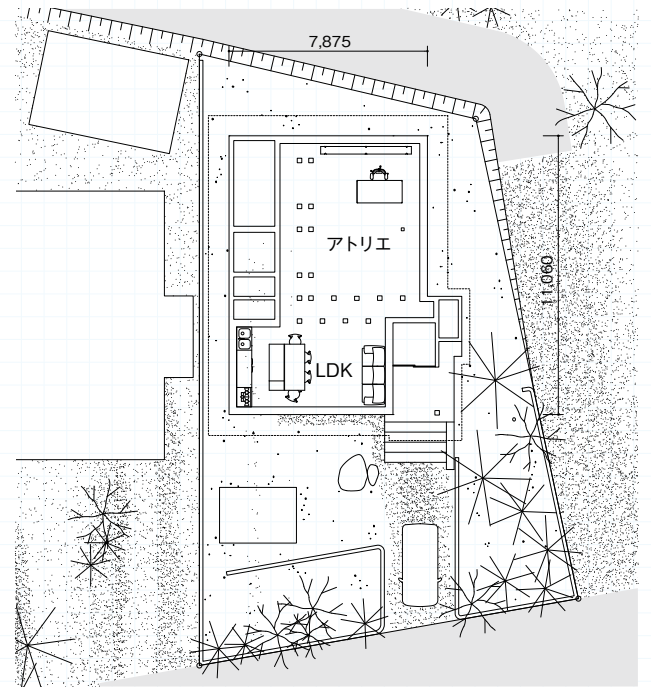
▽1FL GL±0



# 平面図

0 2 4m

1/300

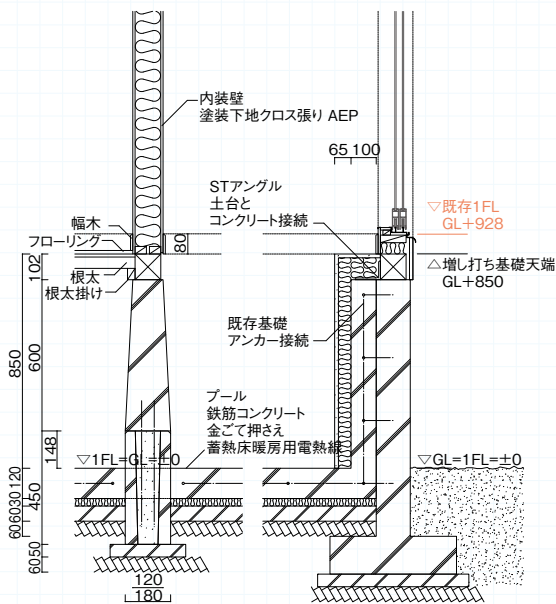


基礎階

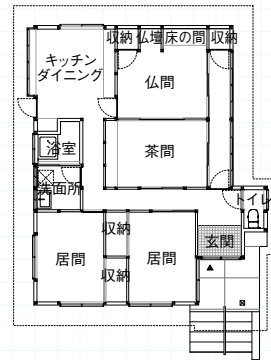
# 基礎まわり詳細図

0 200 400mm

1/30



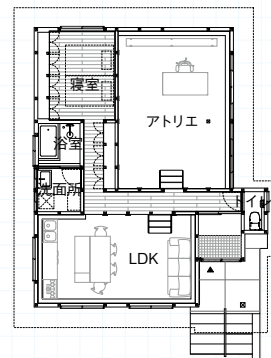
改修前



1F



改修後



1F



南側外観。周囲は山に囲まれ、豊かな自然のなかにたたずんでいる。

## 「リビングプール」

### 建築概要

所在地	山形県天童市
主要用途	住居、アトリエ
家族構成	夫婦+子ども2人
設計(改修)	増田信吾+大坪克亘
構造設計	松浦建築
構造	木造在来工法
施工	分離発注
階数	地上1階
敷地面積	281.58㎡
建築面積	81.77㎡
延床面積	81.77㎡
設計期間	2013年6月~8月
工事期間	2013年8月~2014年4月

### おもな内部仕上げ

プール	
床・壁	コンクリート金ごて押さえ 水性無機質塗料
天井	パテしごき AEP
寝室・廊下	
床	フローリング t=14mm OP
壁	下地クロス貼り AEP
天井	パテしごき AEP
トイレ・洗面所	
床	不燃化粧板
壁	下地クロス貼り AEP
天井	パテしごき AEP
浴室	
床・壁	タイル
天井	バスパネル



Masuda Shingo

### 増田信吾

ますだ・しんご/1982年東京都生まれ。2007年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。現在、武蔵野美術大学非常勤講師。



Osunbo Katsuhisa

### 大坪克亘

おおつぼ・かつひさ/1983年埼玉県生まれ。2007年東京藝術大学美術学部建築学科卒業。

おもな共同作品=「風がみえる小さな丘」(2008、島田雄太も加えた共同設計)、「ウチミチニワマチ」(09)、「躯体の窓」(13)。

まとめ

## 一元的な統括から脱する

文/伊藤公文

住宅を設計するとき、建築設計者は何よりも対象の全体を一元的に統括することを望む。ここでは全体性を成立させる思考や意図の一貫性が、形態や空間の独創性が絶えず問われる。

増田信吾+大坪克亘のツイン・ユニットはこの近代以降の定式に真っ向から疑念を投げかけ、実践に移している。

まず、形態や空間の探究は先人たちによって遍くなされ、未踏のスペースはほとんどないという認識をもっている。それは圧倒的な分量のすぐれた実例を前にしての諦念でもあるだろうし(何をやっても模倣になる)、すでにある完全なストックから選択することさえできればよいという自覚でもあるだろう(どんな最適解でも引き出せる)。独創的な空間を自ら創り出さなければいけないという強迫観念からは遠く離れている。

次に、彼らは設計過程での一望監視的な関与の仕方を否定する。住宅は施主とその家族が資金を出し、使うわけだから、建築設計者が専制的な立場にある必然性はなく、場合に応じて施主(使用者)が先導したり、あるいは並走したり、協同したりと、さまざまな関係で進むほうが自然だと考えている。

これらの結果として、設計の対象が部分に限定されることになっても、まったく厭わない。実際、彼らはこれまで、住宅の塀だけ、窓だけ、そして今回は基礎だけに焦点を絞って設計を行ってきた。

しかし感わされてはいけないが、部分に焦点を絞っているように見えるからといって、それにより全体性を脱構築しようという意図は微塵もない。逆に対象をじっくり観察して要所を見出し、関節技のごとくそれを操作することによって全体を覚醒させ、意想外の地点への着地を図るのである。

「リビングプール」では、85cmの深さの不整形なコンクリート製プールの内側を生活の場にするという、合理的でありながら意想外の解決を編み出している。そこでは既存の木造の構成に、施主の意図、設計者のたくらみ、自力施工の制約が絡み合い、乱反射して、予定調和のごとく陥りがちなお洒落でミニマルな常套とはきっぱりと縁を切った、豊かな複旋律が響きわたる空間が出現している。

キッチンの上の2階収納室から1階を見下ろす。大きな吹抜けを、4つのユニットが囲んでいる。

特集／建築サポート——建築家が主役ではない その3

作品

未完の住まい

設計

山崎健太郎

## 積み木のような、住人自身の家づくり

一見、建築家のコンセプチュアルな創意があふれる住宅。4つのコの字型のユニットが、角度を変えて並べられている。じつはこのユニットは、施主が設計に参加するための仕掛けだった。より広く感じるように、より空が見えるように……。施主の戸田健二さん一家の想いが詰まっている。



Special Feature  
Architectural  
Support  
Case Study

3



建築家



Yamazaki Kentaro



Toda Kenji



施主



## 住宅は 自分の自由に つくりたい

——戸田さんは、山崎さんと出会う前には、ほかの方に設計を依頼していたそうですね。

**山崎健太郎** 僕が設計の依頼を受けたとき、戸田さんは少し悩んでいました。自分の頭の中にある建てたい住宅のイメージを伝えても、相談していた設計者には、そんな家には住めないよと一蹴されてしまったそうです。

**戸田健二** そうなんです。どうやら住宅には決まった「型」のようなものがあるようで、自分の自由にはできない、そう感じてしまいました。たとえば、「最低1部屋は和室も必要です」と言われたりして、そうした慣習に従わなければならぬのか、というもどかしさがありました。僕がアメリカに住んでいたことも関係あるかもしれませんが、機能が決まった部屋を強いられることに、すごく違和感がありました。

**山崎** すでに住宅観をすっかりもっていたので、前の設計者とはうまくいかなかった

ったようです。僕と

戸田さんには共通の友人がいたので、知り合うことができた。その友人とは別の仕事を一緒にしていたこともあり、僕のことをよく理解

してくれていて、相性のよい戸田さんとお会いできたので、振り返ると、お互いにタイミングがよい出会いだったと思います。

そこからすぐに設計に取りかかったわけではなく、こんな家に住んだら楽しいよね、なんていう話のやり取りを最初のうちは続けていました。

——住宅観の共有からスタートしたのですね。具体的な設計はどのように進みましたか。

**山崎** 最初の頃のやりとりは、どこの設計事務所でもやられているような一般的



Yamazaki Kentaro

「機能を満たすユニットを決め、その配置は、模型で一緒にスタディしました」  
建築家

「図面ではイメージできなかったのですが、模型だと空間を感じることができました」  
施工

Toda Kenji

29~33ページの対談風景の写真/傍島利浩

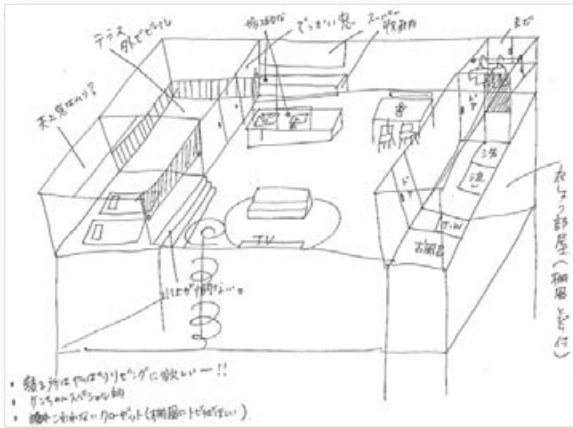
## 要望を形にする システム

——そうした要望をどのように設計に近づけていったのでしょうか。

**山崎** F A Xのスケッチにもあるとおり、戸田さんは、家族と過ごす広々としたリビングがほしい、といったも言っていました。またやはり仕事柄、とにかく収納のことも気にしていましたね。そうした要望を全部聞いていると、敷地を大幅に上まわる広さが必要でした(笑)。建築家にとって、施工が主役であるというのは、あたりまえのことである一方、施工の要望を聞き入れるだけではもちろん設計はできません。これから暮らしていくのはふたりなので、押し付けるような設計としては絶対に行けませんから、どう設計に参加してもらうかが重要でした。

とはいえ、建築を専門としないふたりには、図面による説明だけで打ち合わせするのは難しいと感じていました。

## 施主によるスケッチ



施主が描いたスケッチ。アパレル関係の仕事柄、多くの服を所有しているので、1階はすべて収納になっている。このスケッチを実現するには、敷地面積を大幅に上まわる広さが必要。

## 模型



住宅としての機能を満たすユニットの模型。これをどう配置するかは、施主と建築家が一緒にスタディした。

何か一緒に設計を進めるためのツールが必要。そこで、機能を満たす住宅のユニットだけを僕が決め、その配置を一緒に模型でスタディする方法をとりました。

どの事務所でも行っているであろう模型によるスタディを、クライアントにも公開した方法といえるかもしれません。このスタディのシステムを決めたところに、建築家としての生みの苦しみがありました。その後の戸田さんとのやりとりは、とても楽しいものになりました。思わぬ発見もありましたし、空間がどんどんよくなっていく、という実感もあ

りました。

戸田 図面では、どうしても実際に空間になったときのイメージがしづらかったです。模型にしてもらい、一緒に手を使って動かすことで、空間の広がりなどを感ずることができました。

——そのスタディのシステムについて教えてください。

山崎 戸田さん夫妻の広い家がほしいという要望は、よくよく聞いてみれば、家族全員がいつも一緒にいられる広さの空間で暮らしたいというのが本音だったんです。そこで、真ん中に大きな吹抜けの空間をつくり、そのまわりに必要な機能

をもったユニットを用意する、という構成を提示しました。寝室、キッチン、水まわり、趣味のスタディールームといった機能を、「0・5部屋分」の広さのユニットにしたのです。これは、各ユニットと真ん中の吹抜けの空間をそれぞれつなげることで、感覚的には本来必要な「1部屋分」の広さを確保できるという考えです。

——収納のことを気にしていた、とのことですが。

戸田 もともと、妻とふたりで2LDKのアパートに住んでいたのですが、1部屋は服を隠すようにまるごと収納だけに

使っていました。ですの、大きな収納も要望のひとつでした。

山崎 ただ、僕のような他人の目から見ると、戸田さんが持っている服は隠す必要のないセンスのよいものばかりでした。そこで、ユニットの2階部分をすべて開放して収納にしたんです。そうすると広さを確保しつつも、収納が得られる。今は収納ですが、家族の変化に応じて子ども部屋に変えられるようにもしています。

——戸田さんは、この模型でスタディを試みて、いかがでしたか。

戸田 スタディをしているときに僕らが大事にしたいと思っていたのは、この吹



1階のキッチンから見る。  
吹抜け部分の床には、蓄熱式電気床暖房が設えてある。

抜きの空間の広さでした。ただ、それは、物理的な広さという意味ではなくて、キッチンからどの部屋も見渡せたり、部屋のどこからでも空が見えるような視線の抜けでした。模型をつくってもらったことで、そういった自分たちの希望も明らかになっていったし、一緒に議論を重ねながら設計にかかわることができました。山崎 たえば広さを感じるためには奥行きの出し方も大事です。そうしたことも、模型を見ながら、一緒に確認することができましたよね。ユニットがさまざまな方向に角度をもっているのは、こうした要望を戸田さん自身の手によってスタディした結果なんです。空が見たいという要望には、ユニットとユニットとのあいだに窓を設けて、視線が空に抜けるようにしました。

——このスタディのシステムには、建築家として、どのような想いを込めていますか。

山崎 建築家として、いかにクライアアントとの着地点を見つけるかが、僕たちの設計の仕方だと思っています。今の時代、暮らすためのリテラシーは誰しもがもっていますから、建築家が落とすところをしっかりとコーディネートできれば、住み手自身で設計を考えることは十分可能です。この成熟した社会では、建築家の役割も変わってきていると思います。そのため、生活をよりよくするツールとしての建築は、いまだ非常に有効だと思っています。

この住宅も、一見すると建築家のコンセプトチュアルな形態操作にも見えてしま

うかもしれませんが、むしろ自我を抑えてクライアントとのコミュニケーションを優先させた結果なんです。建築家が周辺環境を読み解き設計を行うのはあたりまえのことですが、そうした設計の与件に施主という存在も含まれているわけですから、コンセプトチュアルなだけではいけないと信じています。

## 今は「未完」でいい

——「未完の住まい」というタイトルが付けられています。が、「未完」とはどういうことでしょうか。

山崎 子ども部屋のことを考えて、今は「未完」にすべきだと考えたんです。設計中に戸田さんにお子さんが誕生したことが、とても大きな設計の転換点だったのです。将来、お子さんができるだろうという想定も設計ではしていましたが、いざ実際に授かると、その現実感はずいぶん違うものでした。最初は、とにかく収納をどうするか、という議論でしたが、途中から子ども部屋をどうするべきか、ということの本気で考えるようになりました。

戸田 本当に子ども部屋はいるのか、という議論に立ち返ることもありましたね。将来の住まい方を考えることは、どういふ家族でいたいかを考えることだと気付かされました。ただ、親がどんなに考えても、子どもたちがどう考えるかは、まだわからないことです。だから、親だけが先まわりしてすべてを決めてしま





→写真上/浴室からキッチン方向を見る。各ユニットのあいだは、フルハイトの開口部になっている。1階からは空を見上げることもできる。写真下/寝室から作業室の方向を見る。

←1階が寝室、2階が収納室のユニット。床から天井までの高さは5mほど。現在、2階は収納室になっているが、後に子ども部屋などの別用途に変化していくことも想定されている。

べきではないよね、と考えることができ  
ました。それが、この住宅の「未完の住  
まい」というテーマでもあります。

山崎 今思い返せば、戸田さんが最初に  
抱えていたストレスは、いわゆるnLDK  
という住宅の形式が、家族の形まで束縛  
してしまうという点に対する懸念だっ  
たのだと思います。nが2になれば子ど  
もはふたり、nが3になれば3人という、  
建物に自分たちの暮らしをあてはめてい  
く生活はふさわしくないと感じました。

将来のことは将来考えればいい、という  
おおらかなふたりなのだから、家族の形  
は自分たちの手で決めていくべきです。  
子どもの誕生ということを契機に、ふた  
りの望む家族の形を自分たちでスタディ  
するべきという気付きが、やはり今回の  
住宅の設計で、一番大事なことだったと  
思います。

戸田 他人がこの住宅を見ると、「どうや  
って住んでるの?」と言われますが、僕  
たちの家族は、むしろこの家じゃないと  
住みづらいつさえ思っています。

住みはじめて今年で3年たちましたが、  
今後も生活に合わせて変わっていくと思  
います。子どもが成長して本人が希望す  
れば、壁を設けても構わないと考えてい  
ます。

## 建築家のもの ではなく 施主のもの

—ある程度、施主に委ねた設計のあり

方です。

山崎 建築を使う人が設計から一緒に考  
えるということは、竣工後に建築を使う  
ためのいわばトレーニングだと思えます。  
「未完の住まい」の設計プロセスが、まさ  
にそうでした。たとえば、この住宅のス  
タディを「施主の話を書く」ということ  
自体をコンセプトに標榜して語ってしま  
えば、聞こえはいいですが、建築家の設  
計のアドバイザーにも聞こえてしまう  
はずですよ。

この住宅にしても、僕の好みとしてい  
えば、あえて箱を斜めにずらさなくても  
いいんです。角度が何度あるか、という  
議論よりも、大事なのは施主がスタディ  
を通して、自分たちの住宅として考えら  
れるようになったということです。つま  
り、この建築をどうやって使っていこう  
か、という発想が施主の頭のなかに自然  
と思いつくかぶ状況を生むことが重要だと  
思います。

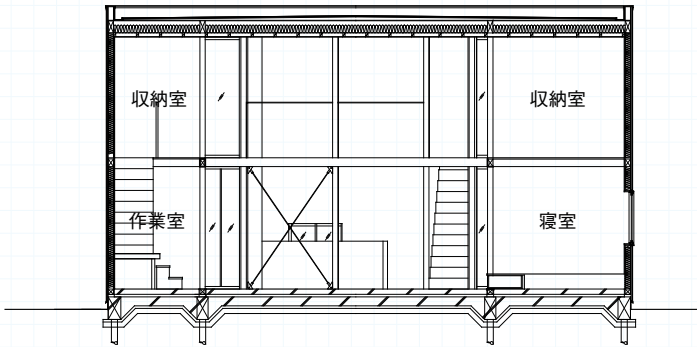
ほかの仕事でもそうですが、施主と一  
緒につくりあげたと思える仕事は、楽し  
かったという感覚がいつまでも残ります。  
もちろん、施主と意見が食い違ふときも  
ありますよ(笑)。そうしたときに、建築  
家として意見をはっきりと言うこともあ  
りますが、それは決して、相手の意見を  
ねじ伏せてしまおうというものではあり  
ません。

引き渡した後に、建築が建築家のもの  
ではなく施主のものだ、と感じてもら  
うことが必要です。その方法を、これら  
の仕事のなかでも引き続き探求してい  
こうと思っています。

## 断面図

0 1 2m

1/150



### 玄関

玄関の夜景。角度を振ることで、浴室や寝室の奥は外から見えないように配置されている。



## 「標準」から個人仕様の道具へ

文／本橋 仁

キッチンや浴室のいった4つのユニットが、さまざまな方向を向いて置かれている。その角度の振り方は、机上の計算だけで決められたものではない。この配置は、模型を通した建築家との対話のなかで、施主の戸田健二さんが、「感覚」を用いて設計に参加した結果なのである。その「感覚」のもと、どのような家族でいたいか、という施主の主観によるようだ。

なるほど、この住宅の設計者は、建築家の山崎健太郎さんであるとともに、施主の戸田さんでもあるのだ、と確信させるプロセスである。そして、使う人が変われば、建築の形も変わるというあたりまえのことにも、またこのステディの方法から気付かされる。

マンションの広告を見れば、そこには必ず「nLDK」の表記で部屋の広さが書かれている。個室が何部屋という固まった住宅の形式に対しては、建築家もずっと以前から批判的に住宅を発表してきた。しかし、擁護すれば、この言葉が生まれた当時は、nLDKによる効率的な住宅の大量供給こそ、劣悪な住環境を改善し、生活の質を向上させる役割を担ってきた。「標準」を決めることで、平均点以上の生活が担保されたのである。

しかし不幸なことに、住宅の一方的な供給は、建築を自らのものとして考える思考、それすらも奪ってしまったのかもしれない。本来、住宅はその建設こそ大工に任せども、日々の修繕や、ちょっとした改修などは、自ら行うものであった。メンテナンスを業者に依頼するのがあたりまえとなった現代は、どこか建築をプロフェッショナルな領域へと押しやり、住宅はまるでありものの器となってしまったように思う。

「未完の住まい」は、戸田さん自身の手で特別に調整した生活の「道具」となった。であるならば、その住みやすさを、他者がとやかく言える立場にない。この住宅が、誰のものであるかは、戸田さんご夫妻とお子さん、また、これから新しく生まれようとする命が幸せに暮らしていくこと、それによって立証されるだろう。



西側外観。高さ6mほどのユニットが配置されている。

## 「未完の住まい」

### 建築概要

所在地	千葉県柏市
主要用途	専用住宅
家族構成	夫婦+子ども
設計	山崎健太郎／ 山崎健太郎デザインワークショップ
構造設計	ASD
構造	木造在来工法
施工	ベストック・オフィス
階数	地上2階
敷地面積	181.20㎡
建築面積	69.59㎡
延床面積	106.77㎡
設計期間	2012年3月～2013年6月
工事期間	2013年8月～2014年1月

### おもな外部仕上げ

屋根	構造用合板 FRP防水
外壁	ガルバリウム鋼板小波板 t=0.4mm
開口部	アルミサッシ

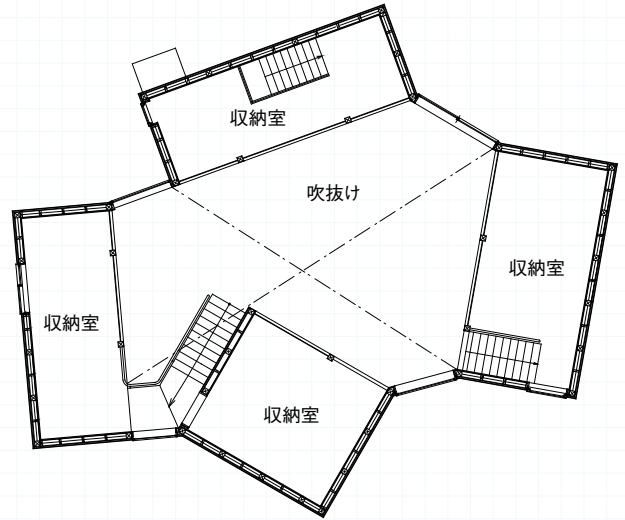
### おもな内部仕上げ

リビング	
床	モルタル金ごて押さえ 防塵塗装
壁	ラーチ合板 OS拭き取り、 ガルバリウム鋼板小波板 t=0.4mm
天井	PB t=9.5mm AEP
寝室	
床	ラーチ合板 t=24mm OSCL
壁	ラーチ合板 (表面研磨) t=12mm OS拭き取り
天井	根太現し OS拭き取り
キッチン・トイレ・洗面室	
床	モルタル金ごて押さえ 防塵塗装
壁	ラーチ合板 (表面研磨) t=12mm OS拭き取り、PB t=12.5mm AEP (キッチン一部)
天井	根太現し OS拭き取り、 PB t=12.5mm AEP (キッチン一部)
浴室	
床	モルタル金ごて押さえ FRP防水
壁	耐水合板+珪酸カルシウム板 t=5+5mm FRP防水
天井	耐水合板+珪酸カルシウム板 t=5+5mm VP

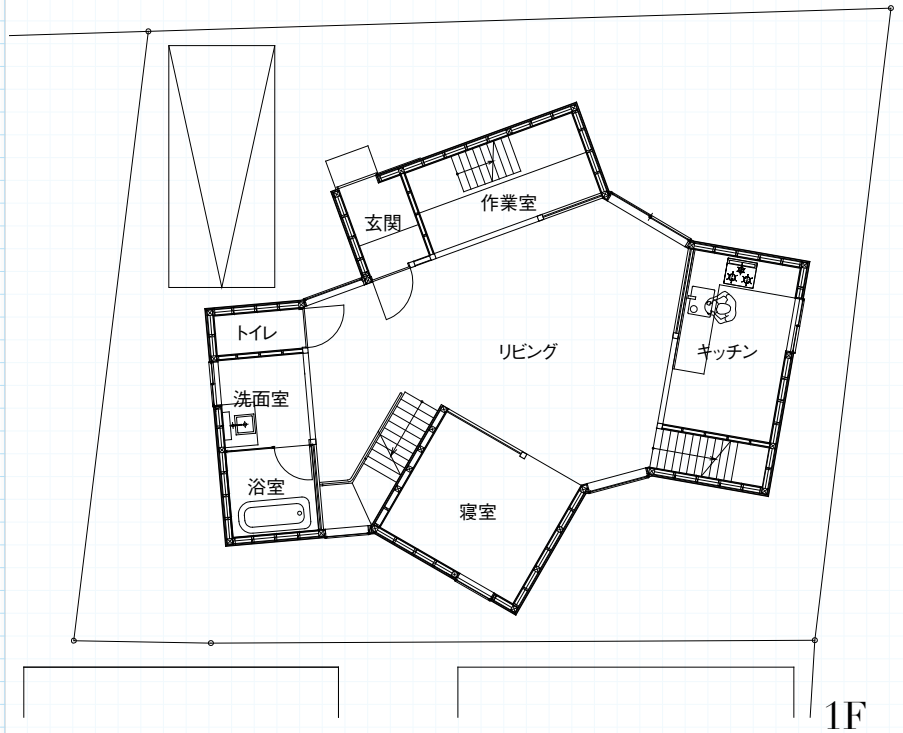
## 平面図

0 1 2m

1/150



2F



1F



Yamazaki Kentaro

## 山崎健太郎

やまざき・けんたろう／  
1976年千葉県生まれ。2002年工学院大学大学院建築学専攻修士課程修了。02年入江三宅設計事務所入所。08年山崎健太郎デザインワークショップ設立。14年～工学院大学非常勤講師。おもな作品＝「庭の中の家」(08)、「糸満漁民食堂」(13)、「はくすい保育園」(14)。

写真／傍島利浩

Special Feature  
Architectural  
Support  
Case Study

4



Omuro Yusuke



建築家



売主

First Asset Management Co., Ltd.

特集／建築サポート——建築家が主役ではない その4

作品

HAUS1004

桜台／建売住宅

設計

大室佑介

司会・まとめ／大井隆弘 写真／浅田美浩

# 建売も、規律正せば、よいお家

外観は、街にあふれる、普通の建売住宅にも見える。建築家の作品らしくないが、日本の住宅街の風景は、こうした建売住宅がつくっている。その建売住宅を、建築家の大室佑介さんは、シンメトリーや比率などの規律を整えることで、サポートした。



2階LDK。建売住宅の標準仕様を用いながらも、天井の勾配を黄金角（約137.5度）とし、柱や窓をシンメトリーに配置するなど、古典建築のような規律を表現しようとしている。





## 土地と設計を セットで売る

——まずはプロジェクトの経緯を教えてください。

大室佑介 この住宅は、もともと僕の祖父が相続税対策のために用意していた土地に立っています。この土地には、当初木造の戸建住宅が立っていましたが、「もう古い先短いから」と、更地にして備えてくれていました。ですから、このプロ

ジェクトのスタートは、祖父が亡くなったとき。相続だけを考えれば、単純に土地を売却するだけでよかったのですが、僕自身もこの桜台で育ちましたし、普通の建売住宅が立つのは悲しいと思いました。そこで、土地だけではなく、建物の設計もセットで買ってくれる不動産屋さんを探すことにし、購入条件や担当者の人柄を踏まえて、第一管財さんをお願いしました。

——すると、売却先を検討する段階ですでに設計がされていたのですか。

大室 町の不動産屋さんのガラスに、よく物件の資料が貼ってありますが、そのほとんどに平面図が載っています。そこで、相談のために必要なものは平面図だろうと考え、ほかの資料はさておき平面図だけ先行して用意していました。

第一管財の担当者 全部で3案ありましたね。確か、平屋の案がひとつと、2階建ての案がふたつ。

Omuro Yusuke

「ありふれた建売住宅を、比率やシンメトリーの調整だけで、変化させる試みです」  
建築家



色が2種類ある標準仕様のクロスを、壁と天井で貼り分け、家型を強調している。

第一管財 すみません(笑)。それは、需要の大小から判断しました。この敷地は30坪ほどですが、2階建てにすれば、2台の駐車場付きで、4LDKの住宅をつくることができます。しかし、平屋で2台の駐車場付きにすると、せいぜい1LDKにしかならない。同じ価格で平屋を購入してくれる買い手は、ターゲットとしてあまりに少数です。注文住宅ならよいのですが、建売住宅としてはリスクが大きく、会社としてなかなかイエスは言えませんでした。

——2階建ての案は、どのようなものでしたか。

大室 ひとつは、リビングが1階で個室が2階にある案、もうひとつは、リビングが2階で個室が1階にある案です。最終的には後者が採用されました。つまり、家族が集まる場所の環境を優先する形になりました。

第一管財 ここ10年ほどの話ですが、練



玄関前の廊下。左右に同じ広さの個室が配置され、シンメトリーが強調されている。

馬エリアは、大きくニーズが変化しているようです。私たちの経験では、かつては1階にリビングを配置する住宅がほとんどでしたが、最近は2階にリビングを配置するものが主流になっていきます。練馬エリアに限れば、個室よりも家族の団らんのための空間を重視するようになった、と説明できるかもしれません。

**大室** その話を聞いたときはとても驚きました。僕はこの桜台で育ちましたし、それなりにエリアの状況を調べて図面を作成しました。ただ、不動産の専門家というのは、それとは比較にならない大きなデータをもっているんですね。逆に说得される形になりました。当時このエリアでは、競合する新築物件が20件もあったそうです。そのなかで買い手が付く設計をする必要がありました。

## 売り手にとっては チャレンジ

——当初案から大きな変更はありましたか。

**第一管財** それほど大きな変更はありませんでした。南側のバルコニーを広くしてもらったこと、それから北側にも小さなバルコニーを付けてもらったことくらいです。ただ、最終的には3LDKになったのですが、会社としては4LDKを希望していました。不動産の仲介業者さんからも、「どうして4LDKにしなかったの？」とよく質問がきました。私たちが4LDKのほうがターゲットが多いと判断していたんです。ただ大室さんは、

4LDKにした場合のリビングの狭さと言及し、3LDKを推しました。大室さんの主張がなければ間違いなく4LDKにしていましてから、会社としてはチャレンジでした。

——それで、実際の売れ行きはどうでしたか。

**第一管財** まず竣工後3カ月から4カ月で売れば、と計算していました。実際、2015年の9月に本格的な売出しを始めて、1月の下旬に売却。競合が多いなかで十分な成果が出たと思います。3LDKで不利かと思っていましたが、広いリビングを気に入っていただいたようです。

**大室** 売れたと聞いたときは、ほっとしました(笑)。購入された方は、普段、建売住宅などの施工も手がける建設関係の方でした。何軒か見てまわったそうですが、「こは、ほかとは違う」と(笑)。

## 工務店の 標準設計に従う

——第一管財さんが手がける住宅には、標準設計がありますか。



北側外観。外装材は標準的な建売住宅のもの。雨どいや窓がシンメトリーに配置されている。

**第一管財** 標準設計をもっているのは、いつも施工を依頼している工務店さんです。さまざまなメーカーの商品を吟味した、オリジナルの標準設計資料があります。その資料は、住宅設備や材料が複数の選択肢から選べるようになっていて、大室 この住宅は、その標準設計の資料の範囲内で設計をしました。コストが増えないように設備や材料を選んでいっただけです。強いていえば、第一管財さんからの希望で、外壁に使用しているサイディングやフローリング材のグレードを上げたくらいですね。

**第一管財** それにもかかわらず、この建売住宅がデザインナイズ物件だと認識され

たことはおもしろかったですね。仲介業者さんから「これはデザインナイズですか」と質問がきました。やはり、普通の間取りやデザインではないことがわかったようです。

## 建売住宅の シンメトリーや 比率を調える

——それはシンメトリーを基調にしているからでしょうか。

**大室** そうかもしれません。この住宅は、シンメトリーや黄金比、白銀比といった、いわゆる美にまつわる古典的な建築言語を用いて設計をしています。昔から有効性が確認されてきた比例や構成に力を借りた形です。しかし、たとえば西洋の神殿を思い浮かべてください。神殿は広場や丘の上に立っていて遠くから眺めることができず、この住宅の前面道路は4mしかありません。建物全体のプロポーションが確認できるような敷地ではありません。ただ、そうした敷地や環境にあっても、そのような建築言語が効力を発揮するのではないかと期待をしてみました。どこにでもある建売住宅が、それだけでどう変わるのか。そもそも、工務店さんが長年培ってきた標準設計に従うことで、建売住宅としての品質は保たれます。そのうえで、より美的な効果の有無を確認すること。それがこのプロジェクトの要点です。

——比率について、もう少し具体的に教えてください。





大室 建物正面を見るとわかりやすいと思います。玄関とバルコニー部分は、サ イディングの種類を変えています。この部分に使用したのは、白銀比という比率です。これは、A版の用紙と同じで、普段よく目にするため黄金比よりもなじみ深い比率です。最近ではランドセルもA版の比率を採用していますよね。玄関は人を迎える場所なので黄金比よりもなじみがある白銀比を採用しました。

——大室さんは、磯崎新さんのアトリエで勤務していました。磯崎さんというと、「住宅は建築ではない」との有名な発言をされていますが、大室さんは住宅でも建築美を求めています。

大室 その発言は、大家族が核家族となり、さらに個人へと解体されていく社会単位の変化を念頭に、そこに建築家が形を提案する意義を疑問視したものです。建築家は、住宅よりも公共のための建築をつくるべきではないのか、と。また、僕はそのなかに、事物の美に関する基本的なルールを参照しない建物は「建築」ではない、というような意味も含まれていると広く解釈しています。それは、磯崎さんがこれまで設計された公共建築のなかに、古典的な建築言語がはっきり見とれるからです。だから、そうしたルールを用いて設計ができれば、建売住宅さえ「建築」になりうるのではないか。それを建築家が言いつづけていく必要があるのではないか。そんな考えから、こ

の住宅では「建売も、規律正せば、よいお家」というスローガンを掲げて取り組みました。これは、磯崎さんの発言に対する今の僕の答えでもあります。

## 建売住宅にも建築美を

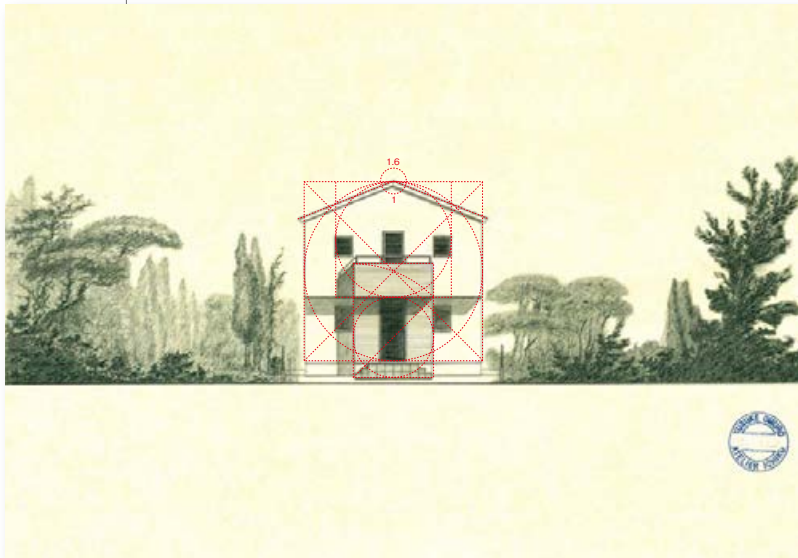
——工務店さんの標準設計どおりの「建売住宅」でありながら、古典的な建築美を目指している。

大室 そうです。地震に対する備えから、金物などを増やして構造強度を上げる配慮はしましたが、設備や材料は工務店さんからいただいた標準設計のまま。そこに示されていない比

例や構成のみに注力しました。ただ、その結果現れるシンメトリーの構成などは、建物の売買の話からは大きく離れますので、第一管財さんにはあまり気付かれないうように進めました(笑)。

第一管財 いや、気付いてましたよ(笑)。毎日たくさんの建売住宅の平面図を見ているすから、いつもと違うものはすぐわ

かります。ただそうした建築の美意識も、大室さんではできるだけ不動産屋の立場から説明を試みてくれました。たとえば、1階の個室のクロゼットに扉がないのは、少しでも空間に広がりをもたせようとしたからだそうですが、「部屋は4畳半ですが、こうすれば5畳半と表記できます」といった説明をしてくれました(笑)。また、私たちには天井を低くするという考え自体がなかったのですが、廊下の天井などは意図的に高さが下げられています。こうすると、個室に入ったときにより広く感じると説明を受けましたが、出来上がるまでは正直不安でした。でも確かにそうなっているんですね。驚きました



大室さんによるドローイング。全体が正円、正方形、黄金角などの比率でまとめられている。どの背景でも違和感のない建築を目指し、あえて緑豊かな背景が描かれている。

し、とても勉強になりました。——最後に今後の展望についてお話しください

大室 今回のプロジェクトは、私は身内でもあり、建築家でもありました。祖父による相続の準備から、実際に土地が売却され、建物が立ち、住み手へと渡っていく一連の過程を確認できました。結果として今考えていることは、建築家が不動産関係の理論にもっと興味をもち、知識を身に付けていく必要があるということです。そして、今回のようにサポーターの役割を担うことも建築家の職能としては重要な意義がある。もしこれが大きな流れになれば、日本の建売住宅が、そして街が、もう少しよくなるかもしれない。その可能性にかけて、しばらくはこの取り組みを続けてみようと思います。

第一管財 そうですね。建売住宅は基本的に私たち側の理論を反映して供給されます。しかし、毎回必ず設計をする人がいる。そこに大室さんという建築家が入ったのが今回のプロジェクトです。その結果、建売住宅の設計をとおして、会社としても間取りや天井高など、さまざまなチャレンジができました。明らかにいつもとは違う、しかし予定どおりの工期、コストで実際に売却できる住宅が立ったのです。リスクを回避すべき立場としては大きなチャレンジでしたが、得たものも大きかったです。ぜひまた一緒に仕事したいと思います。

## 比率表

住宅の比率を検討するためにつくられた表。正方形、白銀比、黄金比を基準にしている。

### 模型

比率を検討するための模型群。手前の4軒が「HAUS-004」のためにつくられたもの。



### 比率計測器

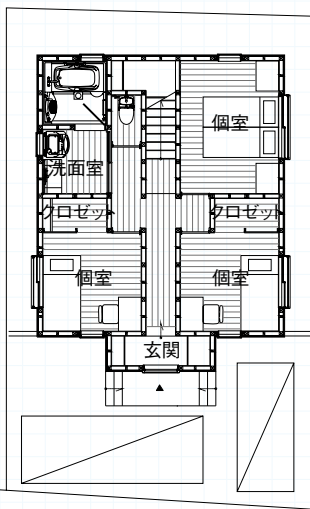
建築の比率を確かめるための計測器。大室さんが独自に開発したもの。街に出て、いろいろな建築にこの計測器をかざすと、意外なところに黄金比などが隠れていることを発見できる。美術館などで売られる商品としても検討している。

基準にした表 正方形							
白銀比を基準にした表							
黄金比を基準にした表							
正方形を基準にした表							
白銀比を基準にした表							
黄金比を基準にした表							

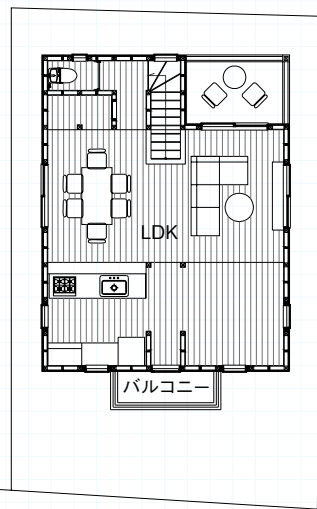
## 平面図

0 1 2m

1/200



1F

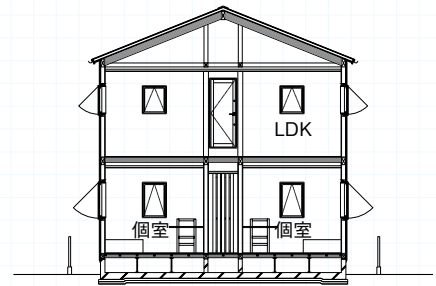


2F

## 断面図

0 1 2m

1/200



## 近代建築への反省

文／大井隆弘



北側の前面道路。典型的な建売住宅が立ち並んでいる。

### 「HAUS-004」

桜台：建売住宅

#### 建築概要

所在地	東京都練馬区
主要用途	専用住宅
家族構成	夫婦+子ども2人
設計	大室佑介／大室佑介アトリエ
構造設計	金田泰裕／yks
構造	木造
施工	YAZAWA LUMBER
階数	地上2階
敷地面積	105.00㎡
建築面積	52.44㎡
延床面積	101.02㎡
設計期間	2015年1月～4月
工事期間	2015年4月～7月

#### おもな外部仕上げ

屋根	コロニアルクアッド
外壁	サイディング貼り t=16mm
開口部	アルミサッシ
外構	モルタル金ごて押さえ、 タイル貼り t=9mm (階段)

#### おもな内部仕上げ

玄関・個室・洗面室・LDK	
床	積層フローリング
壁	PB t=12.5mm クロス貼り
天井	PB t=9.5mm クロス貼り



Omuro Yusuke

### 大室佑介

おおむろ・ゆうすけ／1981年東京都生まれ。2007年多摩美術大学大学院美術研究科修了。07年磯崎新アトリエ。09年大室佑介アトリエ設立。現在、多摩美術大学芸術人類学研究所特別研究員。おもな作品＝「HAUS-000 (練馬区／春日部市：百年の小屋)」(10)、「HAUS-001 (九十九里：住居兼スタジオ)」(13)、「私小説家・川崎長太郎の物置小屋再建計画」(15)。

「HAUS-004」は、建築家の大室佑介さんが、売主である不動産会社の提示した標準仕様に従って設計した建売住宅である。ただし、その過程においては、屋根勾配に黄金角、玄関ポーチに白銀比を採用するなど、美に関する古典的な建築言語の使用が試みられている。ここで大室さんが掲げたスローガンは「建売も、規律正せば、よいお家」。では、その行為はいったい何を狙ったものだったのか。建築美学の歴史を踏まえ、大室さんの言葉の選択に注意しながら検討したい。

建築美学に関する最もまとまった著書のひとつ、建築史家・井上充夫の『建築美論の歩み』（鹿島出版会）によると、近世以前の美とは、「最高の価値」に従属させる希望の見解であり、その価値に対する形容詞であったという。ここで「最高の価値」とは、古代はおもに善や有用性、中世は神や自然、近世は真理や自然法則を指す。しかし、これらの従属性は後にカントらによって否定され、美の独立性が認められるようになった。黄金比に美を認める人は多いが、それは善や神はもちろん比例自体とも無関係であり、あくまで人間の内在的な感覚である。ところが建築の世界では、機能＝美のように、美を従属させる傾向が根強く残った。それが、近代建築の美を考える際の障害になったのだ、とこの本は指摘している。

すると、まずこの住宅からわかることは、「最高の価値」に付随させようとする美の従属的傾向を逆説的に否定していることである。すなわち、ここでいう「最高の価値」をもつわけではない建売住宅と美とを結びつけようとしている。そして、スローガンに「美」ではなく「規律」という言葉を選んだことは、比例やシンメトリーに美を従属させまいとし、機能主義や近代主義が美の扱いに未発達であったことに敏感であろうとする意識の現れのように思える。大室さんは、建売住宅の標準を積極的なまでに受け入れ、古典的な建築言語の適用に終始することで、何か近代建築への反省の仕方を探っているのではないだろうか。

## トレーの下はトイレ！

バルビゾンはパリの南東に位置し、車で1時間ほど。

そのときは秋が深まり、フォンテーヌブローの広大な森は全体が明るい黄色や褐色に染まり、みごとな風景が広がっていた。

グレー村(\*1)に立ち寄る。かつてあの黒田清輝(\*2)が2年間くらいだが、ここに居を構えて「読書」などの代表作を描き、浅井忠(\*3)もやってきて数枚の絵を残している。「グレーの秋」「グレーの洗濯場」と題したそれらの絵は中学の美術の教科書にものっていたと思うが、いつかはその風景を実際に見たいという想いがあった。小さな街の横をゆったりと流れるロワン川にかかる石橋の下、鴨のような鳥が流れる水草や小魚などを追いかけていて、岸辺の大きな樹木が黄色い葉の影を水面に落としていた。洗濯小屋だった跡も残っている。「ああ、ここだ」。

フォンテーヌブローの宮殿を見ながら大きな森を抜けてバルビゾンに入った。小さな集落だがミレー(\*4)の一連の絵画やバルビゾン派と呼ばれる絵描きたちで有名になったところ。ミレーが26年間住んだというアトリエを見る。小さく質素だ。街のいたるところにミレーなどの絵を大きなモザイク画にして掲げているのはちょっと残念。「晩鐘」を描いたところにもある。

小さな1本道の左右の風景はそのモザイク画を除けば、フランスの美しい村のイメージが凝縮されているようだ。不動産屋が多いが、パリから近いこともあって別荘地というより今やここは通動圏なのかもしれない。

ホテルの名は「バ・ブレオ」。ハーフティンバーの建物の奥にプールもある広い芝生や花の中庭があり、客室棟は別棟。夏やクリスマス・シーズンは家族連れでにぎわうようだが、11月はひっそり。

客室はクラシックなイメージでつくられ、華やかな壁紙の部屋もあるいわゆる夢ホテル。チェアは田舎風だがバスは気泡浴槽。ビストロでワインを飲んで鴨料理をいただくと思いが襲ってきた。

翌朝、目覚めるとベッドのそばのコーヒーマーカーをのせてある椅子が気になった。どうも変だ、座が妙に厚い。トレーをよい



人気が消えたガーデンレストラン。

しよとはずしてみて「あつ」と驚いた。なんとトレーの下はトイレではないか！ でもなぜベッドのすぐ横に置いてコーヒーマーカーをその上にのせるなんてことをするのだろうか？ 古道具だらうけれど信じられない。椅子型の「おまる」である。下水が完備していなくて流すことができない時代、こんな「椅子」のふたを開けて木の便座に座り、中の白い陶器とかホーローに羽根などを敷いて用を足し、従者がそれを清掃したのだろうか。宿でもベッドのそばにこうして置いたのだろうか。雪隠は別棟や別室……という日本古来の文化とはおおいに違う。でもその考えが今日のバスルームを生んだのだ。

パリの下水道は割合早くできたのだが、黒田清輝が描いたグレーの家の平面図を見るとバスルームがない。ということはこれを使ったのかもしれない。

「トイレ椅子」を前にしてしばし考え込んでしまった。

\*1 / Grandjumeil. フランスの村。パリ市街から南東へ約60km。フォンテーヌブローの南西約12kmに位置する小村。アメリカ、イギリス、北欧の画家や音楽家たちが滞在。早くからコロンとして知られていたバルビゾンやフォンテーヌブローにはない魅力があったとされ、それはこの村に流れるロワン川にあったといわれている。黒田清輝の滞在以後、浅井忠、和田英作、岡田三郎助、白瀧幾之助、児島虎次郎、都島英喜、安井曾太郎などの画家たちが、この地を訪れている。

\*2 / 黒田清輝(くろだ・せいき) 1866~1924年。洋画家。鹿児島県生まれ。二松學舎卒業後パリで画家に転身、帰朝後白馬会を結成、東京美術学校(現・東京藝術大学)洋画部教員となる。帝室技芸員に選ばれ、また帝国美術院院長などを歴任。17年子爵を襲爵。第5回貴族院議員互選選挙にて当選し、20年に貴族院議員に就任。代表作に「読書」「舞妓」など。2016年には生誕150年大回顧展が開催された。

\*3 / 浅井忠(あさい・ちゆう) 1856~1907年。洋画家。教育者としても足跡を残した。明治美術会を興し、東京美術学校(現・東京藝術大学)教授に就任。1900年フランスに留学。代表作に「春歌」「収穫」「グレーの秋」「グレーの洗濯場」など。

\*4 / Jean-François Millet 1814~75年。フランスの画家。フォンテーヌブローはすれのバルビゾンに定住し、風景や農民の風俗を描いた。代表作に「晩鐘」「落穂拾い」「種まく人」など。

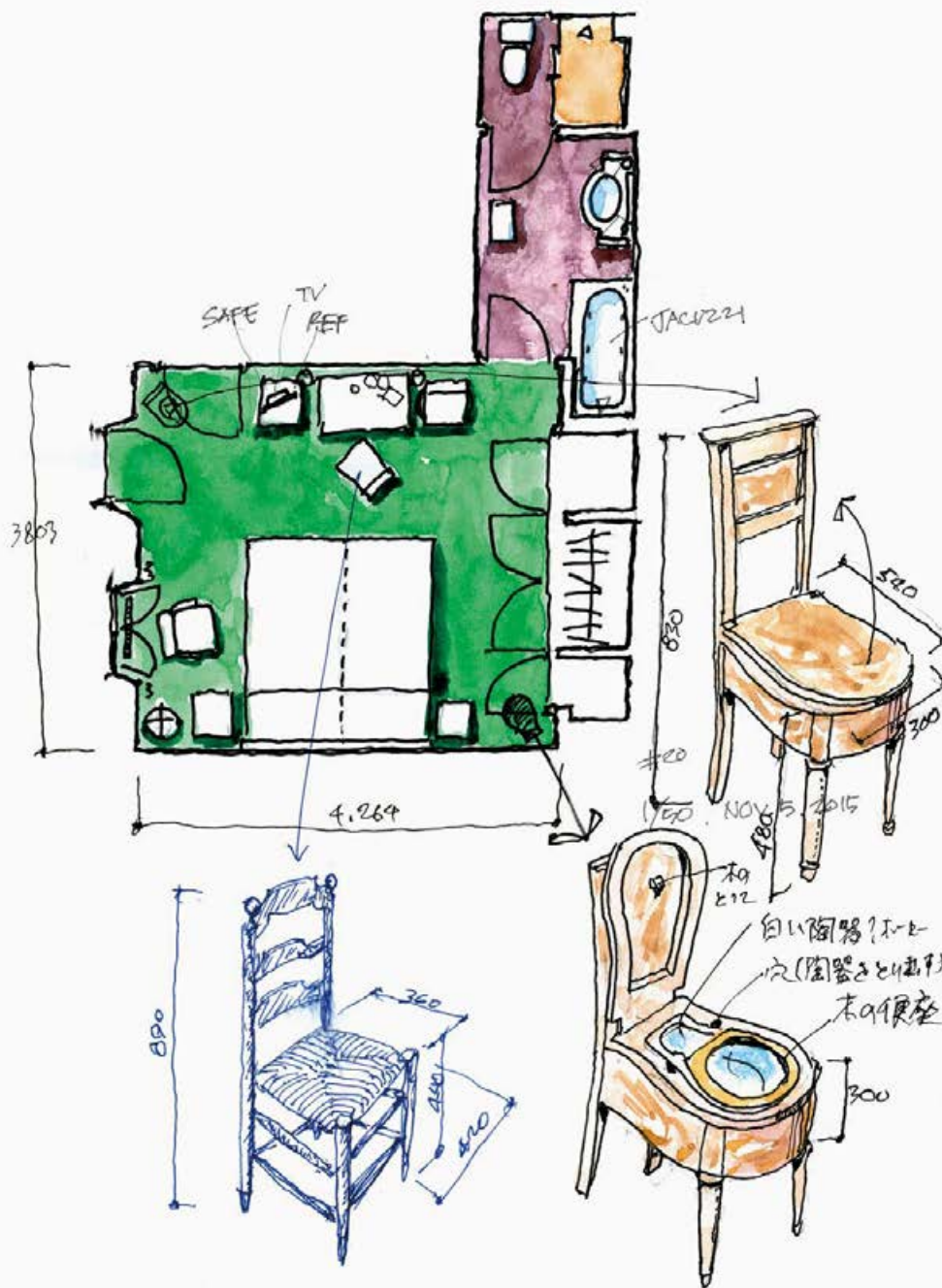
うら・かずや/建築家・インテリアデザイナー。1947年北海道生まれ。70年東京藝術大学美術学部工芸科卒業。72年同大学大学院修士課程修了。同年日建設計入社。99~2012年日建スペースデザイン代表取締役。現在、浦一也デザイン研究室主宰。北海道日建設計デザインアドバイザー。著書に「旅はゲストルーム(東京書籍・光文社)」「測って描く旅(彰国社)」「旅はゲストルームII(光文社)」がある。



ホテル外観。

# Hôtellerie du Bas-Bréau BJB

Text & Sketch by Ura Kazuya



バスタブは気泡浴槽。

Hôtellerie du Bas-Bréau

Add / 22 Grande Rue

77630 Barbizon FRANCE

Phone / +33 1 60 66 40 05

Fax / +33 1 60 69 22 89

URL / <http://www.bas-breau.com/>



三層の家 設計／中谷礼仁＋ドット一級建築士事務所

1

霊  
が  
通  
る  
家

1  
1階ダイニング。  
右手には中庭につ  
くられた畑が見え  
る。

# 現代 住宅 併走

第三十四回

文／藤森照信

Text by Fujimori Terunobu  
Photographs by Fugo Hitoshi

連載

写真／普後 均



層の家が三ノ輪にあると聞いて、友人ふたりの言葉を思い出した。

ひとつは神戸育ちの松葉一清で、「靴屋、文房具屋、お菓子屋といった同種の店が繰り返して現れ、それが延々と続く三ノ輪のような商店街は関西にはない」。もうひとつは故鈴木博之で「三ノ輪の商店街の魅力は（田舎育ちの）お前にはわからんだろう」。

東京の浅草方面には三ノ輪という下町が、それも神田や芝や築地のような中心に隣接する下町ではなく、そのさらに奥の隅田川に近いあたりに広がっているらしい。

私はかつて神田を中心に、昭和初期の中小の個人商店の建築形式である看板建築を調べているが、看板建築のような建築形式も成立しえないほどデーパーな下町が浅草の周囲にわだかまっているらしい。

らしいと書くのは、下町にせよ郊外にせよ、ひとつの建築形式が成立するような場所しかこれまで訪れたことはなかったからだ。

田舎出の東京研究者にとって今

回は初の三ノ輪詣で。地下鉄を三ノ輪で降り、地上に出て歩きはじめて即当惑。商店街ならまだしも、かの三ノ輪商店街に隣り合うかつての住宅地、正確には住宅と商店の併存地だから、目的になるようなものがない。遠くに丘も、神社の森も見あたらず、道という道は同じ幅でタテヨコ文字に敷かれ、そこに似た高さの凡庸な姿の建物が並び、前後左右に漠然と広がるだけ。顔と立場に似合わず無名の場と墓地を好んだ鈴木博之だつて、この街の四辻に立つたらどっちに進んだもんか困惑しただろう。

ママヨ、少し歩いてみようと思ふと、住居表示に「竜泉」が現れる。そうか、ここは昔の吉原に近い。江戸時代、浅草寺のまわりには歌舞伎の三座と吉原の遊郭が政策的に集められ「悪所」と呼ばれていたが、その隣なのだ。

悪所と呼ばれただけでなく、江戸時代には繰り返して大火で焼かれ、近代に入ってから火事は止まらず、とりわけ関東大震災と第二次世界大戦の空襲の被災ぶりはひど

## 現代住宅 併走

Nakatani Norihito × Fujimori Terunobu

かった。

あれこれ思いながら一巡した後、教えられた住居表示に至ると、そこにはコンクリートむき出しの3階建てが立っている。三ノ輪の3階建ての〈三層の家〉、わかりやすい。

家の前に立って見上げ、自閉系であることに気づく。窓と出入口が街に向かって開いていない。1階は採光だけのためのガラスプロックで、2、3階も縦長の同様のスリット、2階右の四角な小穴も開口部とはとてもいえない。スリットと小穴では城の銃眼ではないか。

ひさかたぶりに目にするコンクリートむき出しの自閉性都市住宅。ただちに安藤忠雄の「住吉の長屋」（1976）をはじめ70年代に日本でのみ爆発的に出現した一連の住宅を思い浮かべるが、ひとつ違い、コンクリートむき出しとはいっても、開放しただけではなく、コンクリートプロックを使っている。それも、開放しのラーメンの壁にプロックを詰める一般的なやり

方ではなく、1階は全面開放し、2階、3階は全面プロックという珍しいやり方で表現している。

20世紀初頭よりコンクリートをどう表現するかという難題が生じ、フランス、ドイツ、日本の3カ国の建築家が先駆的に取り組み、たとえばフランスは「開放し」を、ドイツは「ハツリ」を、日本は「開放し」と「プロック」と「モルタル塗り」を試み、そして結局、開放しが正解ということになった。このあたりの事情はこのシリーズで何回も取り上げてきたとおり。

## ブ

ロックはいわば負けるのだが、しかし、基層を打ち放しにしてガッチリ固め、上層をプロックにして軽やかに見せるというこの家の造りを見ると、プロックによるコンクリート表現はもともと試す価値があつたんじゃないかと思われてくる。こう思い返しても世界の近代建築史上、日本ほどちゃんとした建築家がプロック表現に取り組んだ国はないのだから。

外に閉じたコンクリート砦の中



2

2階の開かれたアーカイブ。中央の棚には発掘品が並ぶ。

## 3

中庭からの見上げ。



3





# 5

東側外観。1階は開放し、2、3階と屋上の立ち上がりはコンクリートブロック造。開口部の少ない自閉型の都市住宅。コンクリートブロックの壁には梁が走っていないことに注目。

左手に中庭をのぞく。

# 4



6

3階は、法要室として計画されたが、通常は「音の実験室」となっている。壁には好みの絵がかかる。右手の奥のオープンスペースが、**「霊の空間」**となる。

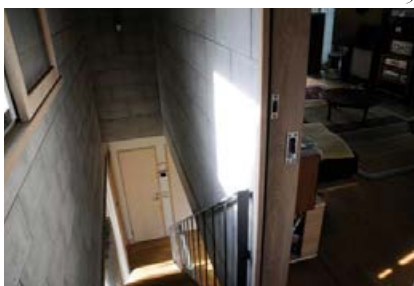


6

9

9

3階から階段室の見下ろし。



建物を見ただけではわからないことがこの家にはある。設計主旨の文にも、取材の折に設計者・中谷礼仁からの説明にもあったが、テーマが「葬送」なのだ。死者の霊をどう扱うか。中谷が言うように、死者の霊の扱いは、建築や庭園の本質的テーマにちがいない。なぜなら、1885年、「神は死んだ」ことになる以前、建築や庭園を動かす原動力は霊専門の神にちがいなかったし、宗教建築も庭（浄土庭園、禅の石

7

「霊の空間」の中心となる納骨室。



7

はどうなっているのか。これまで自閉性住宅をいくつも訪れてきた経験から予想はつくが、実際に入ってみると、違った。安藤の「住吉の長屋」も伊東豊雄の「中野本町の家」(76)も、コンクリートの岩の中には採光と通気のため小さな中庭的隙間がとられていたが、

8

3階納骨室下の寝室。臨終の際に抜け出た霊は天井のガラスブロックを通して屋上へ、さらに別世界へと上昇する。



8

「三層の家」の中には土があり畑があった。大地が顔を出していた。そして、その大地を掘り起こし、出土した溶けた瓶や焼き物の類を棚に並べ、繰り返された被災の跡が可視化されていた。

世界へ抜けるという、現代建築とは無縁とかわれるだろうが、それは違う。グロピウスを例外として、ミス、コルビュジェ、ライト、ガウディ、丹下健三を問わず、近年ではゲーリーの「ビルバオ・グッゲンハイム美術館」(1997)がそうであったが、世界の巨匠たちの代表作を前にしたときに覚える「自分の中がカラになるような幸福感」は、あれは自分の中の何か

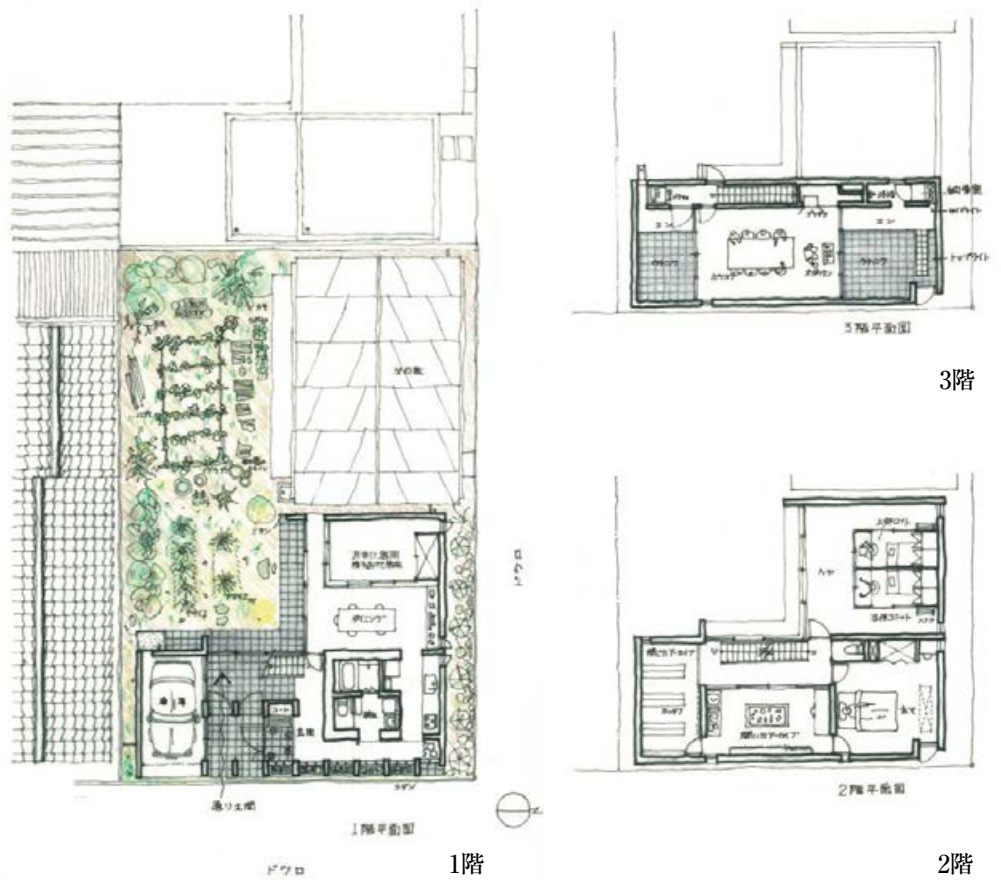
別

が抜け出る幸福感にちがいない、その元をたどると神がまだ生きていた頃の宗教建築や庭に通じている。ひそかに通じている。言い方を要するならば、別世界を予兆させる質をもつ。

「三層の家」に戻る。東京の最デリープにつくられた家は、コンクリートの壁の内側にひそかに大地をムキ出し、井戸のようにして地と天のあいだに空間の垂直軸を通していた。最デリープにわだかまる諸々の霊は、速やかに抜けていくだろう。

平面図

0 2 4m  
1/300



Three Layered House

三層の家



建築概要

所在地	東京都台東区三ノ輪
主要用途	倉+専用住宅
設計	中谷礼仁+
	ドット一級建築士事務所
施工	鯨組
敷地面積	149.32㎡
建築面積	87.3㎡
延床面積	199.5㎡
階数	地上3階
構造	鉄筋コンクリート組積造
竣工	2012年
図面提供	中谷礼仁

中谷礼仁

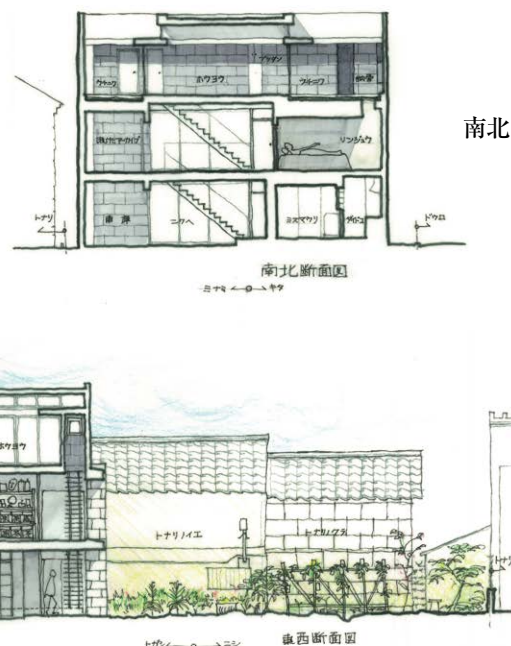
1965年、東京は下町の三ノ輪に生まれ、育ち、今も住む。89年、早稲田大学を出た後、大阪市立大学で教え、2007年から母校に戻り、現在は建築史の教授を務める。歴史研究の対象は古今東西におよび、近年は揺れる大地での人の営みに関心をもってユーラシア大陸をたどった。大阪時代からアセテートという出版社も営む。設計は大阪時代に町屋を改修し、〈三層の家〉は町屋の3作目となる。



Nakatani Norihito

断面図

0 2 4m  
1/300



藤森照信

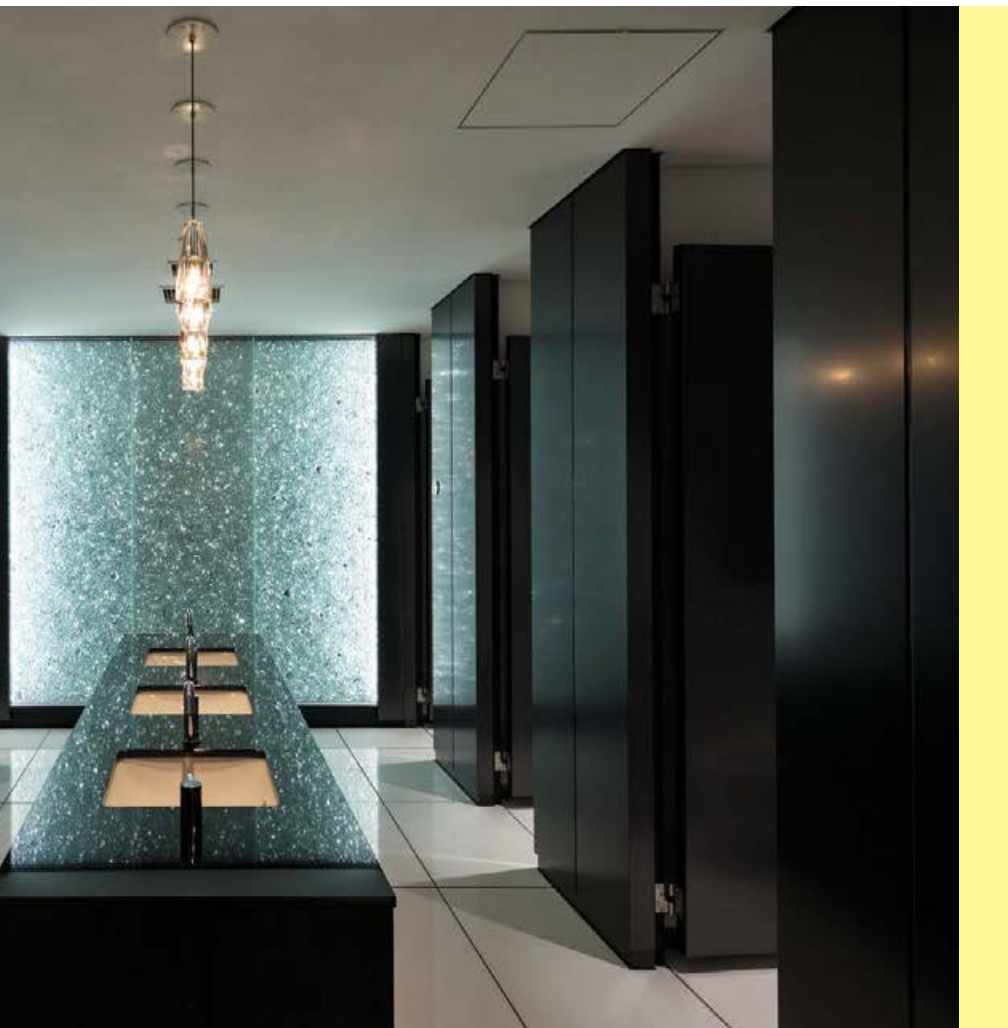
建築史家。建築家。東京大学名誉教授、工学院大学特任教授。専門は日本近現代建築史、自然建築デザイン。おもな受賞=『明治の東京計画』(岩波書店)で毎日出版文化賞、『建築探偵の冒険 東京篇』(筑摩書房)で日本デザイン文化賞・サントリー学芸賞、建築作品「赤瀬川原平邸(ニラ・ハウス)」(1997)で日本芸術大賞、「熊本県立農業大学校学生寮」(2000)で日本建築学会作品賞など。



Fujimori Terunobu

# 東急プラザ銀座

Tokyu Plaza Ginza



数寄屋橋交差点より見る。

## 女子トイレ

写真右／パウダーコーナーにも洗面器が置かれ、洗面コーナーとの使い分けが可能。左／ガラス壁は工房への特注品。



## 銀座の新たなランドマーク 伝統と革新があふれ出す 「光の器」

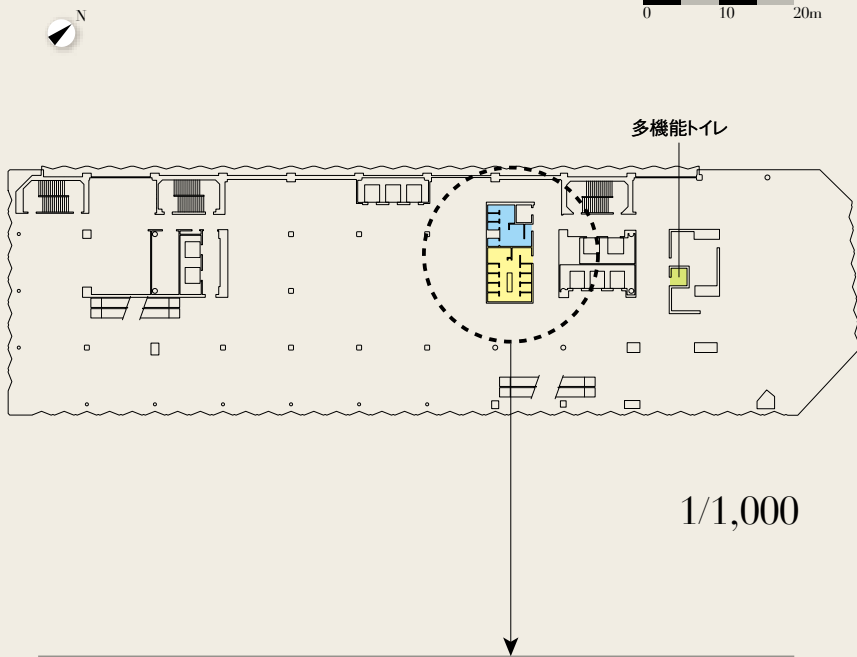
取材・文／大山直美 写真／川辺明伸(ポトリイトを除く)

今年3月31日、銀座・数寄屋橋交差点角に大型商業施設「東急プラザ銀座」がオープンした。地下2階、地上11階の全13フロアにおよぶ売り場には、計125店舗が出店。6階の巨大な吹抜け空間や屋上テラスなど、共用スペースも充実している。事業主体は東急不動産、建築設計は日建設計が手がけた。

伝統と革新が共存する街・銀座にふさわしい施設を目指す東急不動産との話し合いを重ねるなか、日建設計が導き出した建築のコンセプトは「光の器」。そこから、江戸切子をモチーフにした現在の外観が生まれたという。

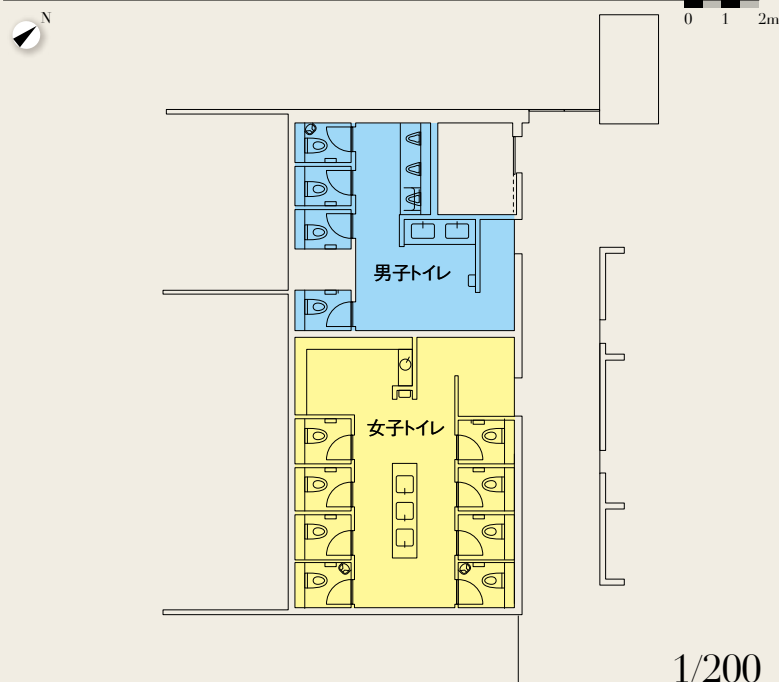
東急不動産の岩城崇志さんによれば、もともと建築本体の設計は計画当初から日建設計に決まっていたが、じつは外装に関しては、街のランドマークにふさわしいデザインが求められるため、複数のデザイン会社に参加してもらい、コンペを実施したとのこと。その結果、数社のうちの1社として参加していた日建設計の

6階平面図



1/1,000

トイレ平面図



1/200

中央奥のガラス壁が、黒い壁面に映える。洗面コーナーは、両側から利用できる。



男子トイレ

小便器を奥まった位置に配し、混雑時にトイレ外にまでおよぶ列を解消している。



## ガラスのカーテンウォールが街の表情を映し出す

案が選ばれ、晴れて箱の外形も中身も同社が設計することになったのだそう。

入社まもない頃からこのプロジェクトにかかわってきたという日建設計の畑野了さんは、外観のデザインについてこう語る。

「通常、商業施設は商品の日焼けを嫌ったり、各店舗が内側に独自の世界をつくりたい想いもあって、窓が少ないのですが、われわれはあえて全部ガラスカーテンウォールにすることにこだわりました。光り輝く器というイメージだけでなく、内側ににぎわいを外に伝え、街の風景が映り込むといった、街との関係性を生み出し、都市の風景の一部になるような建築をつくりたかったからです」

確かに、建物を外から眺めると、時間帯によって、内部が透けたり、あかりが漏れ出したりと、多彩な表情を見せてくれる。また、ガラスの壁面が立体的に入り組んでいるため、映り込んだ街の風景は抽象化され、雑多な印象が薄まって見える。

「銀座は地区計画で建物の高さが制限されているため、どのビルも限られた敷地いっぱい建てるをえなく、そのようななかで圧迫感がなく、かつ存在感があるという、バランスがとれた建物に仕上がったと思います」と岩城さんも満足げだ。

## 女子トイレ



写真上／洗面器を囲むパウダーコーナー。鏡の下には、木フレームの荷物棚。洗面器、鏡、棚はすべて高さが選べる。

写真右／ブースは通常、奥に深い形状だが、横幅を大きくしたことで、広々とした印象を与える。

写真左／奥のスリット窓からは自然光が入る。右手のカーテン奥は、フィッティングスペース。



### 階ごとに異なるデザインで自分に似合うトイレを

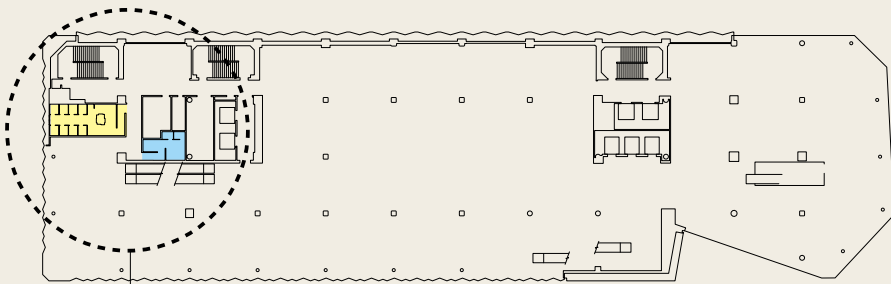
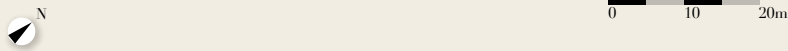
さて、各階の水まわりはどんな空間なのか。6つのフロアのトイレを見学してまわった。まず驚くのが、階ごとにトイレの位置が異なる点だ。岩城さんはこう振り返る。

「売り場はもちろんです。銀座でゆったりお買い物を楽しんでいた。だからには通路にも余裕をもたせ、大勢の店員さんの裏動線も確保しなければならぬ。残りの限られた容積で、どこにどれぐらいの広さのトイレをつくれればいいか、ずいぶん悩みましたね」

最終的には、テナントが店舗内にトイレを設ける階にはパブリックトイレは設けず、6階は人が集まるラウンジのそばに、飲食店街はどこからアクセスしやすい中ほどにといたった具合に、各階のフロア構成と客の流れに合わせて、位置を決めていったという。「配管のことを考えたら上下同じ位置にあるほうが楽に決まっていますから、かなり施工者泣かせな現場でしたね」と岩城さんは苦笑する。

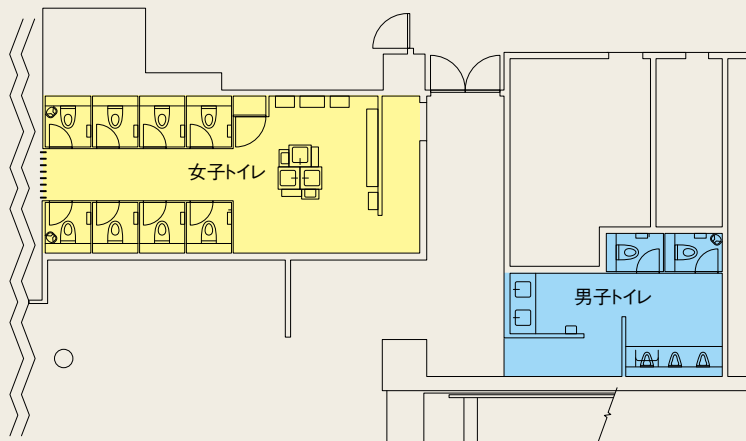
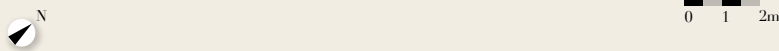
プランや内装も、フロアによってバラエティに富んでいる。内装は各階売り場のテーマに沿って変化をつけており、たとえば5階は木のぬくもりが感じられる空間なのに対し、6階は黒と白を基調にしたモダンな和の空間。さらに女子トイレの奥の壁面には、滋賀の工房に特注したと

5階平面図



1/1,000

トイレ平面図



1/200

## 男子トイレ



小便器は壁掛式を採用。白黒を基調に、女子トイレのデザインと揃えている。



洗面器のあいだに、造り付けのごみ箱を設置。すっきりとしたデザインに。

いう光り輝くガラス壁を設けるなど、演出効果も満点だ。

洗面カウンターも、個性派揃いで、2方向から使えるアイランドカウンターもあれば、高さを変えたベッセル式の洗面器を並べたコーナーもある。地下2階の女子トイレに至っては、3つの洗面器や鏡のデザインがすべて異なるという徹底ぶり。これについて、畑野さんは次のように語る。

「公共性のある商業施設では、同一のものをずらっと並べることがユニバーサルデザインであるかのようにとらえられがちですが、僕は個人的に、誰にでも使いやすい洗面器はないと思うんです。身長も違えば好みも違うので。それより、デザインに多様性をもたせ、そのなかから自分にフィットするものを選べるほうが満足度は高いのではないかと。そういう思想に基づいて全体を設計したつもりです」

### 使いやすいさや動線を徹底した

動線計画も綿密に練られている。

とくに、女子トイレはほとんど洗面コーナーとパウダーコーナーを分離させているので、手だけをさっと洗いたい人、ゆっくり化粧直しをしたくない人の住み分けがしやすい。また、小便器コーナーが奥まった位置にある男子トイレが多いが、これについては岩城さんいわく「あれは混雑した際に人が並ぶことを想定した結果です。小便器コーナーが手前にある



## 女子トイレ

石貼りの壁が、上質なトイレ空間を演出。手前の洗面台両端に、ハンドドライヤーを設置。右奥はパウダーコーナー。



## 男子トイレ

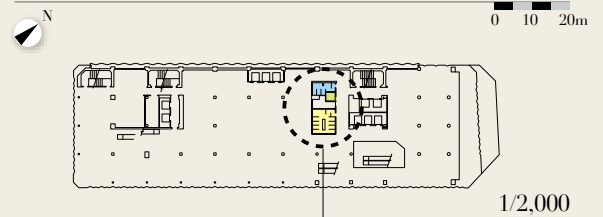
手前に洗面コーナー、奥に小便秘とブースコーナー。



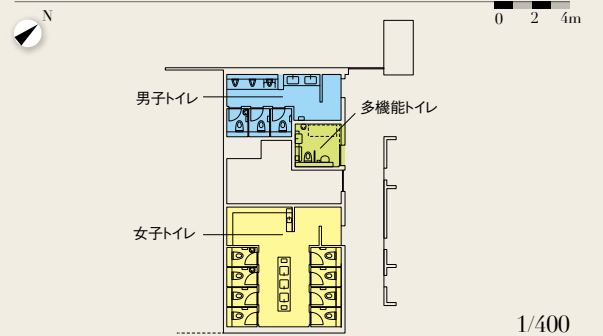
## 多機能トイレ

男女トイレに合わせたデザイン。右手前には、収納式多目的シートを設置。

## 11階平面図



## トイレ平面図



と、行列が通路にまでできて、女子トイレ前を塞ぎかねません。すべてトイレ内だけでなく、通路まで含めたプランを考えました」

限られた広さの中で必要な器具数を確保するため、ブースの形状もまちなちで、一般的な長方形ではなく、正方形の平面も少なくない。「奥行きがさほど深くなくても、横幅があるほうがゆったり感じられることもあります。スペースから割り出したサイズではありますが、新鮮みもねらいました」と畑野さん。

おふたりの話を聞けば聞くほど、広さや時間など、あらゆる制限と闘いながら、使う側にとって快適なトイレをつくるために粘り強く検討を重ねたことが伝わってくる。

「広さも外形も決まっているのに、たび重なる設計変更や追加注文があり、究極のパズルだったと思います。それでも無理やり詰め込んで使いつらくならないように、デザインも機能もほどよくつくり込んでいただけなのは非常によかったです」と岩城さん。

ちなみに、女子トイレの洗面コーナーとパウダーコーナーの分離など、プランや仕様については、社内や外部の女性スタッフに意見を求め、かなり反映させたとのこと。「そういう意味では、われわれふたりがメインで考えたとはいえず、大勢の意見を取り入れながら、みんなで作ったトイレです」。そう岩城さんはしめくくってくれた。



## 東急プラザ銀座

### 建築概要

所在地	東京都中央区銀座5-2-1
主要用途	店舗
事業主	東急不動産
設計	日建設計
構造設計	日建設計
施工	清水建設
敷地面積	3,766.73㎡
延床面積	50,000㎡
階数	地下5階／地上11階 (店舗は地下2階～地上11階)
構造	鉄骨造、 一部鉄筋コンクリート造、 鉄骨鉄筋コンクリート造
駐車場	約170台
竣工	2016年2月

### おもなTOTO使用機器

#### 5階

##### ●男子トイレ

壁掛大便器セット UAXCINPAN／  
ウォシュレットPS2n TCF5523／  
マイクロ波センサー壁掛小便器ST XPU11／  
クリーンドライ高速両面タイプ TYC420W／  
CERA 洗面器 FLMWL40

##### ●女子トイレ

壁掛大便器セット UAXCINPAN／  
ウォシュレットPS2n TCF5523／  
CERA 洗面器 FLMWL40

#### 6階

##### ●男子トイレ

壁掛大便器セット UAXCINPAN／  
ウォシュレットPS2n TCF5523／  
マイクロ波センサー壁掛小便器ST XPU11／  
クリーンドライ高速両面タイプ TYC420W／  
CERA 洗面器 DV045560

##### ●女子トイレ

壁掛大便器セット UAXCINPAN／  
ウォシュレットPS2n TCF5523／  
クリーンドライ高速両面タイプ TYC420W／  
クリスタルボウルベッセル式 洗面器 MR600



### 男子トイレ

男女・多機能とも、  
壁面は白いタイルで  
統一される。



### 多機能トイレ

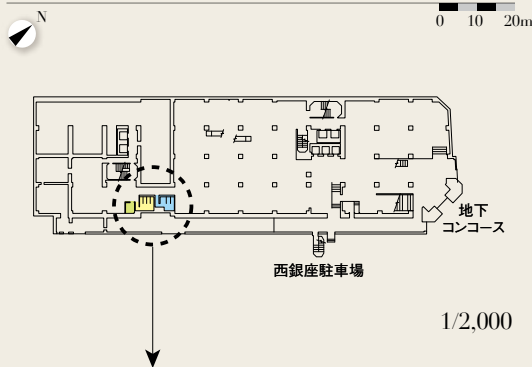
さまざまな利用者を  
想定。オストメイト  
対応の設備も。



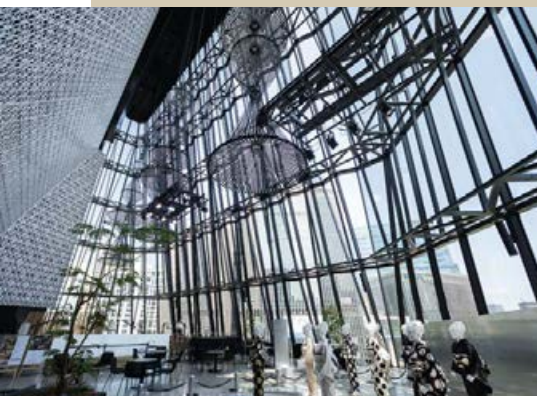
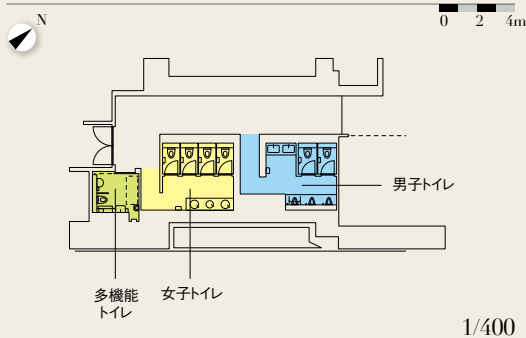
### 女子トイレ

洗面器や鏡は異なる  
デザインのもの、  
組み合わせている。  
洗面台には、手の込  
んだモールドディング  
装飾を施した。

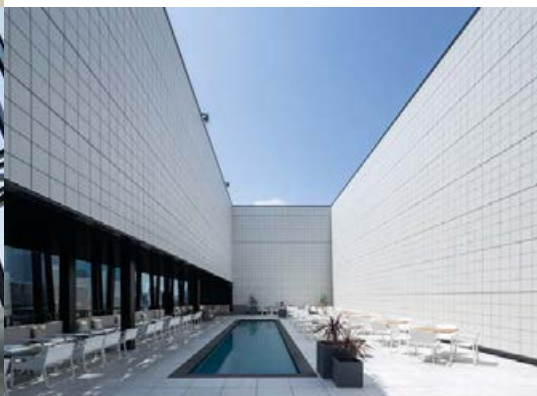
### 地下2階平面図



### トイレ平面図



6階のKIRIKO LOUNGE。



屋上のKIRIKO TERRACE WATER SIDE。



岩城崇志  
Iwaki Takashi

東急不動産  
ウェルネス  
事業ユニット  
事業戦略部  
業務推進グループ



畑野 了  
Hatano Ryo

日建設計  
設計部門 設計部

## 「いい家」の向こうにある「豊かな暮らし」

代表取締役 中村 勝治 さん

自然素材の家というと、一般には無垢の木を現しとした「木の家」といったイメージが強いだろう。新潟駅から車で20分ほどのピュアヴィレッジ新潟には、ナレッジライフが手がける住宅のモデルハウスが、「Pureの家」「白の箱」「三角の家」「Lounge DESEN」と、4棟立っているが、おそらくそのイメージに最も近いのが「Pureの家」。実際「依頼の9割は『Pureの家』のイメージ」（中村勝治社長）だという。だから、ここで大切な

のは、つくり手のこだわりを見せることより、依頼者に「いくつもの選択肢のなかから選んでもらう」ことなのだろう。

### 30年前に受けた大きな影響

もとはホテルマンだった中村さんが住宅業界に転じたのは20代後半。知り合いの工務店の社長に誘われたのがきっかけだったそうだが、もともと住宅や建築に興味があったのだろう。ま

もなく、工務店の仕事にとどまらず、仲間と勉強会を立ち上げて、新潟の気候に合った家について模索を続ける。そうした活動のなかで出会ったのが自然素材であり、建築家の吉田桂二氏だった。「吉田先生の『広がり間取り』は、今もナレッジライフの基本」と語るように、その頃の出会いが現在のナレッジライフの大枠を決めるほど大きな影響を中村さんに与えた。やがて勉強会の縁で福島の工務店に移った中村さんはそこで



Nakamura Katsuji

なかむら・かつじ／1958年新潟県生まれ。27歳でホテルマンから住宅会社に転職。福島の工務店を経て、2002年に大幸ホーム（現・ナレッジライフ）入社。12年から代表取締役社長。「どういう想いでモノをつくるのか」を大切にしながら、心と身体にやさしい家づくりに取り組む。



←写真右／「Lounge DESEN」のキッチン。ドアを開け放し、広々と使うこともできる。写真左／リビングは、庭に面して大きな開口部をもつ。



ピュアヴィレッジ新潟には4棟のモデルハウスが立つ。左に見える建物が「Pureの家」。



今、住宅会社の動きから目が離せない。  
活動領域はさまざまだが、  
それぞれの土地柄、会社の性格、  
そして会社をリードする人物の性格、  
マーケティング戦略……。  
これは、その個性的な活動で  
地域に生きる会社のドキュメント。



Knowledge Life

Data

株ナレッジライフ
●本社所在地
新潟県新潟市西区善久772-2
●電話
025-211-8505
●代表取締役
中村勝治
●会社設立
1975年
●従業員数
70人
●事業内容
建設工事の請負・設計・監理
不動産売買 住宅のリフォーム工事
損害保険取扱
家具、インテリア提案・販売
●売上高
24億円(2015年8月期)
●URL
www.knowledge-pure.com
●TOTO使用機器
・キッチン
水栓金具(CERA)
・浴室
浴槽(CERA)
水栓金具 ベーシックプラスシリーズ
TMWB40SC1
・洗面所
洗面器、水栓金具(CERA)
・トイレ
便器 ネオレストAH1
手洗器、水栓金具(CERA)

およそ7年、自然素材の家づくりを手がけ、再び勉強会の縁によってナレッジライフの前身・大幸ホームに入社。ふるさとの新潟で会社を託され、自らが考える家づくりにまい進することになる。

**すてきな空間づくりなら あそこへといわれる会社に**

大幸ホームは、1975年に現・ナレッジライフ会長の田村征司氏が創業した。一般的な家づくりを幅広く手がけていたが、これからは何か特徴が必要と、中村さんの入社とともに少しずつ自然素材の家づくりにシフトする。そして2005年、創立30周年を機に社名をナレッジライフに変更。ナレッジは知識、知恵の意で、知恵のある暮らし、価値ある暮らしを掲げる。ちなみに「Pureの家」のPureは、むろん素材の特質からきて

いるものだが、中村さんによると「素材から発展して、つくり手であるわれわれ自身がピュアでいよう、という気持ちを表したものの」でもあるという。

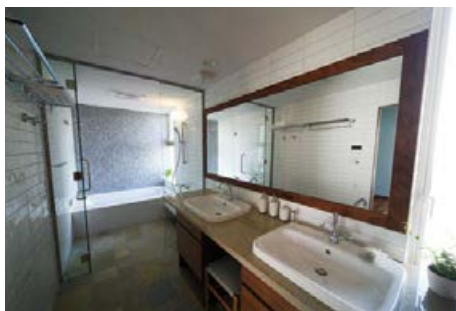
ナレッジライフが提供する新築住宅は、国産材や健康建材にこだわり、また新潟の気候に合わせた工法を採用し、家族のコミュニケーションを大切にしている。「広がり間取り」で構成される。この仕様で年間60〜70棟。新築以外に、既存家屋のリフォーム・リノベーションを別会社「再生良家」で手がける。

「新築とリノベーションなどの境目はどんどんなくなってきました。ですから、家を建てようとかリフォームしようとか決断する以前でも、すてきな空間で暮らしたいと思ったときに『行ってみよう』と思える会社になりたい」

中村さんの話を聞いていると、誇れるハードをもちながらも、ソフトの話が多いようだ。OM

ソーラーの導入など、建築的な工夫を続けつつも「似たような家はどこでもつくれるでしょう」とそれほどのこだわりを見せない。これからやっていきたいこと、の問いには「食を絡めていきたいんです」と驚くような答えが返ってきた。新潟は、暑さ寒さがきびしい分、食の王国でもあるが、その本物の豊かな食材を届けたり、食べてもらったりたいのだという。その一環として、モデルハウス「Lounge DESEN」のキッチンにシェフを招いてランチを振る舞ったり、近所の農家がつくる無農薬野菜で料理をしたり、といった活動も少しずつ行っている。ナレッジライフが目指すのは、「いい家をつくる」ことだけではなく、「豊かな暮らしがしたい」と思った人に道筋を示すこと。中村さんの目は、建築の先を見て

取材・文／市川幹朗 写真／山下恒徳



写真右／1階トイレ。写真左／広々とした浴室空間。

## 新商品開発物語

システムキッチン「THE CRASSO」

2016年8月1日新発売

美しいだけじゃない  
キッチン

センスのよさと使い勝手が評判の

TOTOシステムキッチン「CRASSO」。

この夏、2年ぶりに全面的なモデルチェンジを実施、  
「THE CRASSO」として生まれ変わります。

テーマは、一人ひとりの生活に「とけ込んで、

「リビング空間と美しい関係をつくる」。

「研ぎ澄まされていながら、

しっくりとなじむ新たなデザインコンセプト、

そしてぜひたくに注ぎ込まれた技術の粋を、

今回は開発グループリーダーの喜多智と

デザイン部長の五十嵐健がご紹介いたします。

—新しいシステムキッチン「THE CRASSO」(ザ・クラッソ)の開発コンセプト

についてお話しください。

リビング空間と  
美しい関係をつくる

**五十嵐健** リモデルされるお客さまの家は、もう20〜30年住まわれているんですね。当然、お客さまそれぞれにライフスタイルというものがあります。こういう空間に「あこがれている」とか、こういう空間が「落ち着くからこういうリビングに住んでいる」という、生活があるわけです。それに対してカウンターだけ、水栓だけというように「パーツだけデザインする」のではなく、お客さまの生活空間をどうやってコーディネートするか、そこを起点に考えようということから始めました。

**喜多智** 「CRASSO」という商品は、お客さまアンケートなどをみると、デザインや水まわりの機能性で選ばれています。個々の「パーツやキッチン単体のデザインをよくしよう」という試みは以前からありましたが、今一度生活空間の中でのあり方から見直すことにしたんです。

**五十嵐** コンセプトは「リビング空間と美しい関係をつくる」。システムキッチンとしての美しさを追求するだけではなく、もっと引いたアングル、広い視点でリビング全体を考えています。お客さまの生活を分析しながら、それを多様なモデルプランで「見える化」して、CMF(カラ

ー、マテリアル、フィニッシュ)はこうだ、プロダクトはこうだ、と開発していったんです。

—リビング全体から、ですか。

**五十嵐** 空間全体の中で、妙に大きい水栓があると、そこにだけ目がいえますよね。これはリビングとの関係を壊している。お客さまの生活空間に「ただだけとけ込むかを基準にして、つねに全体を見渡しながらディテールを詰めていきました」。

—今回から「THE CRASSO」、名前に「THE」をつけたのはどうしてですか。

**喜多** 今回のモデルチェンジでは、従来から好評だった水まわりの機能性をさらに向上させたということから、「CRASSO」のネーミングを踏襲しました。さらにデザイン性をほかに「倒すくらい」のレベルにして、ポジショニングそのものをひきあげたいとの考えのもとに「唯一の」という意味合いも込めて「THE」という冠をつけたんです。

—デザインを大きな武器にしようということですね。

**五十嵐** みなさん、ショールームでご覧になった瞬間に「あ、これは自分の家に合うかも」とか「すてきな」と判断されると思うんです。そこで目に留まらないと素通りされてしまいます。でも、いい出会いがあったら、今度は興味をもって近づいてこられる。そのときになって初め

パリのアパートメントのようなキッチン



家具のように、生活空間になじむデザインのキッチン。それぞれのスタイルに合わせたコーディネートが可能。

インタビュー

TOTO株  
デザイン本部  
デザイン第一部長

## 五十嵐 健

いがらし・けん/1971年  
山形県生まれ。96年東  
京造形大学卒業後、96  
年東陶機器(現・TOTO)  
入社。レストルーム商  
品、機器商品、浴室商  
品のデザインに従事。  
2015年より浴室に加え、  
キッチンのデザインを  
担当。16年より現職。

インタビュー

システムキッチン

# “THE CRASSO”

ザ・クラッソ

TOTO株  
キッチン・洗面事業部  
キッチン・洗面商品開発部  
キッチン商品開発  
三グループ  
グループリーダー

## 喜多 智

きた・さとし/1973年  
千葉県生まれ。96年早  
稲田大学卒業後、96年  
東陶機器(現・TOTO)  
に入社し、キッチン開  
発課に配属。2001年よ  
りキッチン商品開発グ  
ループ。以来、キッチ  
ンの商品企画、開発、  
改良業務に従事。15年  
より現職。

さまざまな  
リビング空間と  
美しい関係をつくる

穏やかで上品さのあるキッチン

プロ厨房のようなこだわりのキッチン



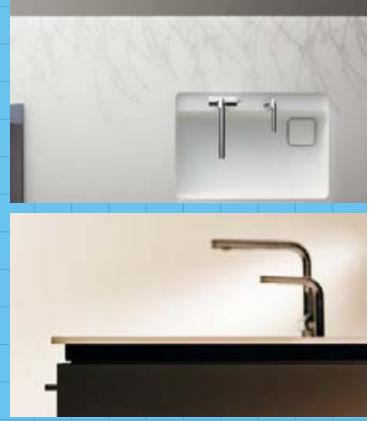
## 「THE CRASSO」のノイズレスデザイン

ポイント

1

### スリムフォルムカウンター

従来の水返しとバックガードをとることで、スリムでフラットな形状を実現。カウンター裏面へ加飾を施した、クリスタルカウンター（柄入り）も加わり、個性的なキッチンに。



ポイント

2

### タッチスイッチ水ほうき水栓LF

「水ほうき・タッチスイッチ・エアイン」の機能はそのままに、さらに1本で水道水と浄水の切り替えが可能に。浄水への切り替えを電気式とすることで、本体を大きくすることなく、シンプルでL字型のデザインを実現。

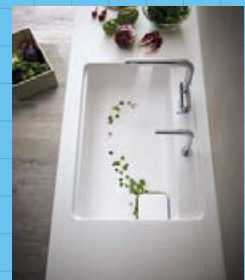


ポイント

3

### スクエアすべり台シンク

排水口まで一気に水が流れ、いつもきれい。新商品では、角のアルにこだわり、すっきりとしたデザインに。



システムキッチン

「THE CRASSO」  
ザ・クラッソ

おすすめパッケージ  
約126万円～  
\*I型 2,550mmの場合となります。

て、私たちは商品の中身についてご説明できるんです。この順序は逆転しません。いろんな理屈を聞いてから「じゃあ好きです」「じゃあかっこいいです」とはならないですよ。この順序が大事だと思うんです。一目ぼれというか、第一印象のデザインが重要なんです。

## 目に映るノイズは徹底的に排除した

「ノイズレスデザイン」とはどういうものですか。  
五十嵐 先ほど申し上げた生活空間にとけ込むデザインですが、それは同時に、とけ込まない不必要な要素、つまり「目に映るノイズ」を排除することでもあります。

喜多 余計な凹凸をそぎ落としてシンプルにすることで、空間にとけ込みやすくなるんです。  
——水返しやバックガードをなくしてフラットなカウンターにしたそうですね。

五十嵐 室内空間は基本的に水平垂直のラインで構成されているので、それに合わせるためというのがひとつ。またデザインの目からすると、ノイズをなくしたカウンターは素材が生きてくるんですね。さらに、フラットな形状をきわめることによって、今回から取り入れたクリスタルカウンターの裏面に配した「すかし模様」が引き立つんです。

喜多 クリスタルカウンターという素材はOTTO独自のものですが、そのよさを最大限に引き出したかったです。システムキッチン発祥の地であるヨーロッパでは、水返しもバックガードもないほうが普通なんです。

作業シーンを一つひとつ洗い出し、既存の形状に求められている役割を明確にしていく。あたりまえのことを見直してみる。それも今回あらゆるパートで取り組んだところです。

## 「水ほうき水栓」と浄水を一体型に

「水ほうき水栓」と浄水の水栓が一本にまとまりました。  
——「水ほうき水栓」と浄水の水栓が一本にまとまりました。  
喜多 節水性が人気の「エアイン®シャワー」搭載の「水ほうき水栓」ですが、水ほうきが浄水でも使えるようになったので、生野菜を洗ったりするのにとても便利です。しかもタッチスイッチだから指先一本でON・OFFできます。

五十嵐 デザイン的には、これも「ノイズレス」がねらいです。ふつうに考えると水道水と浄水で水栓は2本。新しく加わった「きれいな除菌水」の水栓を入れると3本になってしまいます。これはいかにもノイズなので、浄水一体型にしました。また形状も空間に合わせたシンプルなL字型デザインです。

喜多 管のサイズはほとんど変えないまま、水道水と浄水両方の通り道を設け、先端にタッチスイッチを組み込む。さらに、前シリーズから引き継いだ、OTTO独自のエアイン・エコシングルのエコ技術を搭載し、加えて水がほうき状に流れる「水ほうき水栓」を組み合わせる。それらを最小限の空間におさめなければならなかったため、技術的には非常に難度が高かったですね。

——「すべり台シンク」はどう変わったのですか。  
喜多 一定の斜度をつけて、シンクに落ちたものが排水口に運ばれるよ

## New Product Story

Interview  
with  
Kita Satoshi  
and  
Igarashi Ken

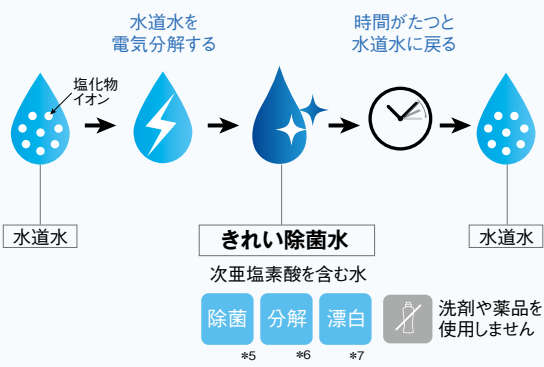


## キッチンのきれいが長持ち

「きれい除菌水」が  
キッチンまわりを  
清潔に保つ

「きれい除菌水」※1は水道水※2に含まれる塩化物イオンを電気分解してつくられる除菌成分（次亜塩素酸）を含む水です。薬品や洗剤を使わず、水道水からつくられます。時間がたつと水※3に戻る※4ので環境にやさしいのが特長です。

### 「きれい除菌水」ができる流れ



### 「きれい除菌水」の新しい使い方

- その  
**1** まな板・包丁きれい  
汚れを落とした後、仕上げに「きれい除菌水」をふきかける。まな板・包丁の除菌※5が可能に。
- その  
**2** ふきんきれい  
ふきんの手洗い後の仕上げとして。翌朝の気になるにおいや黄ばみを抑える。
- その  
**3** 網かごきれい  
網かごのごみを捨て、水で洗った後に「きれい除菌水」をふきかけて、ヌメリを抑える。

※1/試験機関:財北里環境科学センター、試験方法:電解水の除菌効力試験、除菌方法:電解した水道水と菌液を混合し除菌効果を確認、試験結果:99%以上(実使用での実証結果ではありません)、効果・効能:「きれい除菌水」は、汚れを抑制するもので清掃不要になるものではありません。使用・環境条件(水質・材質・形状など)によっては、効果が異なります。水道水を除菌したという意味ではありません。※2/水道水(水道法で定められた水)です。井戸水の場合、塩化物イオンが少ないため十分な効果が得られないことがあります。※3/水道法の水質基準に合致した水です。※4/試験機関:財北里環境科学センター※5/試験機関:財北里環境科学センター、試験方法:除菌効果試験、除菌方法:電解した水道水により洗浄、対象:樹脂製のまな板・ステンレス製の包丁、試験結果:99%以上(実使用での実証結果ではありません)※6/試験機関:財北里環境科学センター、(株)東レリサーチセンター※7/試験機関:財北里環境科学センター※8/試験機関:財北里環境科学センター、試験方法:除菌効果試験、除菌方法:電解した水道水により洗浄、対象:樹脂製のまな板・ステンレス製の包丁、試験結果:99%以上(実使用での実証結果ではありません)、使用方法:台所用合成洗剤など中性洗剤で汚れを落とした後、「きれい除菌水」を12分噴霧、使用・環境条件:水質・材質・形状などによって効果が異なります。すべての菌を除菌できるわけではありません。食中毒を予防するものではありません。木製まな板は除菌できません。

## ついに「きれい除菌水」 をキッチンに採用

「ふきんきれい」「網かごきれい」と3つのメリットを掲げた、「きれい除菌水」の新しい使い方の提案です。たとえば、まな板・包丁を洗った後、

——今回はTOTOの独自技術「きれい除菌水」が初めてキッチンに採用されました。喜多「まな板・包丁きれい」

「きれい除菌水」が初めてキッチンに採用されました。喜多「まな板・包丁きれい」

うにしたのが「すべり台シンク」ですが、こちらも前シリーズの機能を踏襲しています。そのうえで、さらなるデザインの向上に取り組みました。五十嵐 スクエアなデザインというのがベースなので、コーナーの小さなアール(曲面)にこだわりました。また、今回は人工大理石のものも、ステンレスのものもコーナーのアールが同じ形状となるようにしました。今まではステンレスのシンクのアールだけ大きかった。これもノイズですし、なぜベストなデザインで統一しないのかと。

仕上げに「きれい除菌水」をふきかけておくだけで除菌ができます。「きれい除菌水」は薬品や洗剤を使わずに、水道水からつくられるので、再び水道水に戻ります。だから環境にもやさしいのです。モニターの方のご意見では、これならワンタッチするだけなので日々の習慣として「きれい」が長持ちする「の」がいいということでした。

——「THE CRASSO」は今後どういうブランドになっていくでしょう。

喜多 まずはデザイン面で、TOTOのキッチンはやはりいいねとみなさんに言ってもらいたいですね。そのうえで、商品の裏にあるTOTOならではの品質や水まわりの技術を感じてもらいたい。使ってみたらこんなにもいい、と実感していただきたいです。そのベースはできたと思うので、新しいポジションを得て、さらによくしていきたいと思えます。

五十嵐 水返しの話もそうですが、常識とされていることを当然のこととしてやっていると進歩がない。少しずつですが、人の嗜好や暮らしは変わっていきまますよね。前のまま踏襲しつづけていると、だんだん商品と実際のニーズとのギャップが広がってくるんです。変わっていくものに対して、ひとつずつ、とことん見直して解を見つけていく。そうすることが、これからも私たちの大切なテーマだと考えています。

### カタログのご請求

くわしくは「新キッチンラック」をご覧ください。カタログをご希望の方は、本誌に同封の「TOTO通信2016年夏号アンケート用紙」にご記入のうえ、ファクスまたはWEBにてお申し込みください。

FAX ( 093-571-0999 )

### お問い合わせ

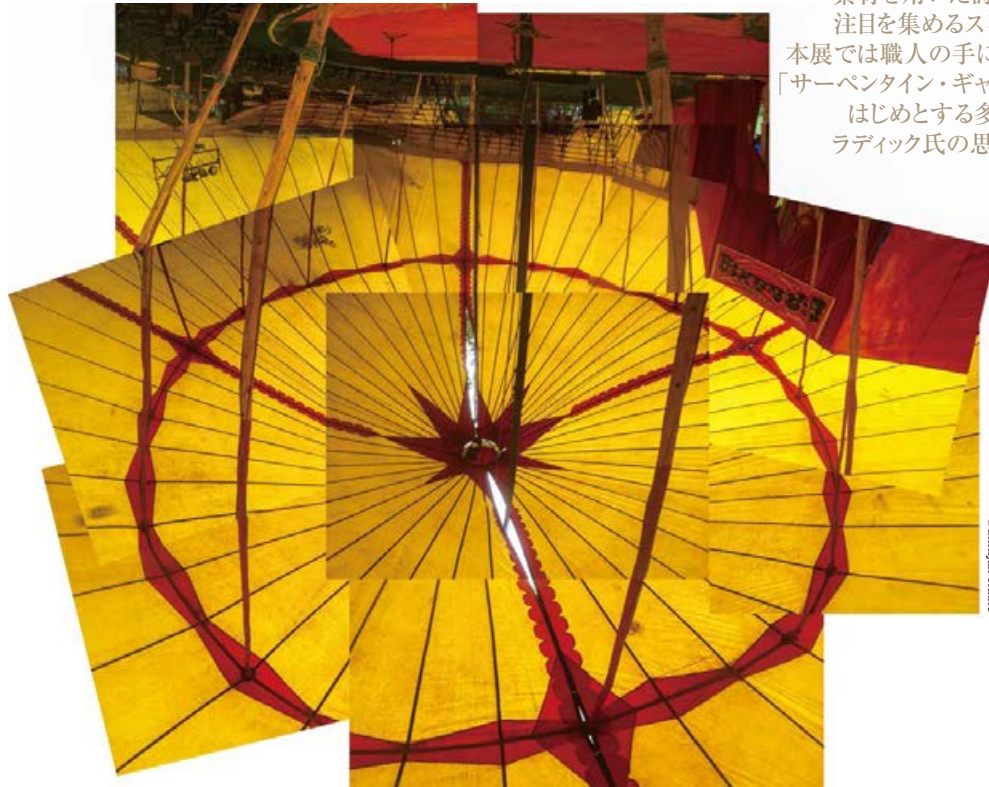
商品の技術的なご質問は、技術相談室ナビダイヤルまでお問い合わせください。

ナビダイヤル ( 0570-01-1010 )

# 「BESTIARY：寓話集」

Smiljan Radić – BESTIARY

チリのサンティアゴを拠点に、樹脂膜や巨石などの素材を用いた詩的かつ大胆な建築で注目を集めるスマイルハン・ラディック氏。本展では職人の手による精巧な模型を中心に、「サーペンタイン・ギャラリー・パヴィリオン2014」をはじめとする多数のプロジェクトや、ラディック氏の思考の源を紹介します。



©Smiljan Radić

Circus Tent

## My Very Own Bestiary

文／スマイルハン・ラディック

私のつくる建築はいずれも、個々の些細な、あるいは雑ばくな問いに対する解答にすぎず、あくまでその場の状況から浮上したもので、さほど汎用性はないように思う。どの解答も遺産になるほどの代物ではないし、私自身にもそのつもりはない。

私の学んだチリの建築学校では、当時のいわゆる現代建築家を模範とすべしと教えられた。その建築家たちというとき、世の中は建築家のマニフェストによってもっとよくなり、打ち出された数々のすばらしい解決策がまずは同業者を、次に一般市民を救う、と固く信じていた。なぜか今でもマニフェストづくりにいそしむ建築家がいる。私は、自分の考えをきちんと整理して明確に伝えようとする彼らは、つくづく立派だと感じ入るばかりだ。

私自身はまるで逆で、たとえばなんの脈絡もなく、いきなり別のもの、別の形、別の素材に行き着いたりする。けれどもそこへたどり着くまではそれこそ手探りで、建築史が残してくれた道筋を転々としながら暗中模索している始末だ。あてどなく、風に吹かれるままにさまよっているだけである。

それだけに、この「寓話集」と題した模型群を見て当惑される向きもあるかもしれない。たぶんひとりの建築家のモノグラフというよりは、複数名による合同展覧会と思われるのではないだろうか。

いわゆる中世の動物寓話集(BESTIARY)には、ありとあらゆる空想上の獣がのっている。これは空想上の動物を解説した図鑑のようなもので、当時の人々には大変な人気があったという。そこには獣ごとに博物学上の説明と挿画がつけられ、しばしば教訓も添えられていた。そのためか、獣の絵には、実在の動物の最もおぞましい部分ないし、最良の部分が都合よく組み合わされている。典型的な例が、上半身がワシで下半身がライオンのグリフォンだ。じつをいうと、私の興味はその絵の美しさにあり、挿画家の技量や物語の信憑性<sup>しんぴやうせい</sup>いかによっては、挿画を真に受けてしまうこともある。こうした挿画は、よ



Next Exhibition  
at  
TOTO  
GALLERY・MA



## 次回予告

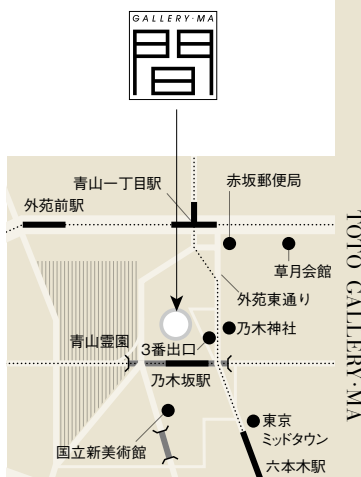
### トラフ展 「インサイド・アウト」

鈴野浩一氏と禿真哉氏率いるトラフ建築設計事務所の展覧会を開催します。「インサイド・アウト」と題した本展では、プロダクト、家具、インテリア、建築、都市といった既存の枠組みを超えて広がる、トラフの思考と活動を紹介いたします。

- 会期  
10月15日(土)～12月11日(日)
- 金沢講演会  
10月22日(土)／金沢工業大学
- 東京講演会  
10月27日(木)／イイノホール
- \*詳細は7月中旬、TOTOギャラリー・間ウェブサイトをご覧ください。

### TOTO ギャラリー・間

所在地  
東京都港区南青山1-24-3  
TOTO乃木坂ビル3F  
電話／03(3402)1010  
ファクス／03(3423)4085  
開館時間／11:00～18:00  
休館日／月曜日・祝日、  
夏期休暇8月6日(土)～8月15日(月)  
入場料／無料  
アクセス  
● 東京メトロ千代田線  
「乃木坂」駅下車3番出口徒歩1分  
● 都営地下鉄大江戸線  
「六本木」駅下車7番出口徒歩6分  
● 東京メトロ日比谷線  
「六本木」駅下車4a出口徒歩7分  
● 東京メトロ銀座線・  
半蔵門線、都営地下鉄大江戸線  
「青山一丁目」駅下車  
4番出口徒歩7分



www.toto.co.jp/gallerma/

## 会期／2016年7月8日(金)～9月10日(土)

Smiljan Radić(スミルハン・ラディック)／1965年、チリ・サンティアゴ生まれ。89年チリ・カトリック大学卒業後、ヴェネチア建築大学で学ぶ。95年にSmiljan Radić Arquitectoを開業。09年よりAIA名誉会員。01年チリ建築家協会35歳以下の最優秀国内建築家賞受賞。15年Oris ACO Award受賞。おもな作品に「サーペンタイン・ギャラリー・パヴィリオン2014」(イギリス、ロンドン／14年)、「直角の詩に捧ぐ家」(チリ、ビルチェス／12年)、「NAVE-パフォーミング・アーツ・ホール」(チリ、サンティアゴ／15年)など。展覧会に、ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展(10年)、TOTOギャラリー・間25周年記念展「GLOBAL ENDS」(10年)、銀座メゾンエルメス「クローゼットとマットレス」展(13年、マルセラ・コレアと協働)などがある。

Smiljan Radić



©Hisao Suzuki

東京と神戸でスミルハン・ラディック講演会開催 → 詳しくはTOTOギャラリー・間ウェブサイトをご覧ください。



©Christobel Palma

### NAVE-パフォーミング・アーツ・ホール

チリ、サンティアゴ／2015年



©Andres Balle

### ビオビオ市民劇場

チリ、コンセプション／2011年～



©Iwan Baan

### サーペンタイン・ギャラリー・ パヴィリオン2014

イギリス、ロンドン／2014年



©Gonzalo Puga

### 直角の詩に捧ぐ家

チリ、ビルチェス／2012年

今回の木製模型は、建築家アレハンドロ・リユエルと共同で制作した。一部は2013年にチリで開いた展覧会「イラス・トレイションズ」に出展したものである。私の手先の不器用さを知る人なら、この模型が私の手によるものではないことは百も承知だろう。ともあれ、模型の精度は必ずしもプロジェクトの進捗具合や完成度とは連動していない。むしろその模型がしるべき瞬間をとらえているか否か、私たちがそのプロジェクトに納得しているか否かによって、模型の精度が決まる。私たちの場合は割合に早い段階で、下絵を描いただけで確信に達することが多い。反対に、なぜか建物が完成してからようやく確信することもあり、その場合はこの予想外の展開を受けて施した作為をきちんと描き留め、その痕跡を残すようにしている。この「寓話集」は、私個人が収集した建築とアートを、再び構築して仕立てたものである。

くできた建築プロジェクトがそうであるように、確信の瞬間をとらえたものののだろうか。それ以上の何を望もう。私の寓話集に収められた一連のプロジェクト模型は、こうした確信の瞬間をとらえたものである。人はこれを建築と呼ぶが、個人的には構築物と呼んだほうがしっくりくる。構築物という言葉は、誰にでも組み立てられる単純な物を思い起こさせるだけでなく、専門家でなければつくれないような難解な建物や手工芸品をも連想させる。構築物という言葉は適用範囲が広いが、建築はもっと狭いもので、勉強しないと扱えない。建築は建築家なしには成立しないが、よい構築物なら建築家なしでもつくることができる。

## セラのお知らせ

### 人気の オリジナル手洗器に カウンターセットが 新登場

セラレーディングでは、カウンター・手洗器・立水栓などを一式でお求めいただける、オリジナルのカウンターセットを発売しました。手洗器2タイプ×立水栓2タイプ×カウンター3色=12パターンを組み合わせてからお選びいただけます。狭いスペースにも設置しやすいよう、カウンターの幅は590mm、奥行きは250mmに設定。トイレ空間だけでなく、廊下や玄関、寝室などに、水まわりスペースをプラスしたいときにもおすすめのセット商品です。



CEK420SET01-BR

「CERA ORIGINAL COLLECTION」  
カウンターセット  
希望小売価格 140,000円～(税別)

当商品を掲載した  
「CERA総合カタログ2016」は、  
セラレーディング ホームページ、  
またはファクスにてご請求ください。  
www.cera.co.jp  
FAX: 03-3402-7185

## TOTOの最新情報

### TOTO News 2

### TDY金沢 コラボレーション ショールームが 4月23日にオープンしました

TOTO、DAIKEN、YKK APの3社(以下、TDY)は、4月23日(土)に、「TDY金沢コラボレーションショールーム」をオープンしました。

リビング、キッチン、浴室、トイレ、床、ドア、窓、玄関まわりやテラスなど、3社共同のコラボレーションショールームでしか実現できない、多様な住まいのイメージをご確認いただけます。

各分野の専門知識をもった3社それぞれのアドバイザーが細やかなご提案を行います。



### TOTO News 3

### TOTOグローバル商品 各種デザイン賞を受賞!

TOTOのグローバル商品「クリーンドライ 高速タイプ(ハンドドライヤー)」が2016年の「iF design賞」を受賞。さらに「ネオレスト DH」が『iF design賞』と『red dot design賞』をダブル受賞しました。両賞は『IDEA賞』とともに世界3



ネオレストDH



### TOTO News 1

### 未来の「家」のあり方を 創造するプロジェクト 「HOUSE VISION 2016 TOKYO EXHIBITION」に出席

TOTOとYKK APの共同協賛により「HOUSE VISION 2016 TOKYO EXHIBITION」に新たな可能性を秘めた未来の居住空間作品を出展します。2013年に続き2度目の開催となる今回は、建築家の五十嵐淳氏、家具デザイナーの藤森泰司氏と協力。異なるふたつの視点により、住宅の「内と外のあいだ、家具と部屋のあいだ」をテーマに、内外の境界という概念を払拭した新しい「家」のあり方を提案します。みなさまのご来場を心からお待ちしております。



開催期間/2016年7月30日(土)～8月28日(日)  
11:00～20:00(最終入場19:30) 開催場所/東京都江東区青海2-1 臨海副都心J地区  
入場料/一般 1,800円、学生 1,500円(前売り 一般 1,500円、学生 1,300円) 主催/HOUSE VISION実行委員会

大デザイン賞に数えられ、60年以上の歴史をもつ賞です。16年は各賞に、それぞれ50カ国以上から、5,200点を超える応募がありました。TOTOの商品は、技術や使いやすさ、それらを融合したデザイン性が高く評価されています。



クリーンドライ 高速タイプ



TOTOからのお知らせページです。  
 イベント、新商品、最新情報など知っておいていただくと  
 お役に立つ情報を心がけています。  
 合わせてご注目ください。

www.toto.co.jp/publishing

TOTO出版のお知らせ

Book 3

『アレハンドロ・アラヴェナ  
 フォース・イン・  
 アーキテクチャー』

重版  
 出来



2016年度プリツカー賞を受賞した南米・チリの建築家、アレハンドロ・アラヴェナ氏の2011年に発行した日本初の作品集を重版。ソーシャルデザインの観点から、社会や地域風土に根ざした活動にフォーカス。巻末にはアラヴェナ氏の考え方がよくわかるロング・インタビューも掲載。混沌とした先が見えない世の中にあって、複雑な物事を統合し方向性を与えられる強力なツールとしての「建築」の役割を気づかせてくれる一冊。

- 著者／アレハンドロ・アラヴェナ
- 定価／2,200円+税
- 体裁／A5判(148×210mm)、ソフトカバー、200ページ、和英併記
- 発行日／2011年7月

Book 2

『アイノ・アールト』



ガラス器のデザインなどでその名を知られるアイノ・アールト。その半生を通じ、デザイナーとして、そして妻として建築家アルヴァ・アールトを支えつづけた。本書ではこれまで知られることのなかった彼女のデザインと生涯を、美しい写真や図面、そして関係者への詳細なインタビューでたどる。男性中心の社会から変貌をとげようとしていたモダニズムの時代に、華麗な活躍で注目を集めたアイノの真価にせまる一冊。

- 編者／ウツラ・キヌメネン
- 訳者／小川守之
- 定価／3,800円+税
- 体裁／B5判変型、ハードカバー、244ページ
- 発行日／2016年7月20日(予定)

Book 1

『スミルハン・ラディック  
 寓話集』

同封の「TOTO通信アンケート」にお答えいただいた方のなかから、抽選で10名の方にプレゼントいたします。



南米を代表するチリの建築家スミルハン・ラディック氏の待望の作品集。代表作「サーベントイン・ギャラリー・パヴィリオン2014」のほか最新プロジェクトを含む18作品を掲載。インスピレーションの源となったさまざまな図版、自身によるグラフィカルなドローイング、検討模型、図面、写真など豊富なビジュアルで思考のプロセスを紹介。巻末の藤本壮介氏との往復書簡により、作品の背後にある深い建築思想が浮き彫りとなっている。

- 著者／スミルハン・ラディック
- 定価／3,600円+税
- 体裁／B5判変型、ソフトカバー、312ページ、和英併記
- 発行日／2016年7月7日(予定)

Information



『TOTO通信』定期購読をご希望の建築家をご紹介ください。

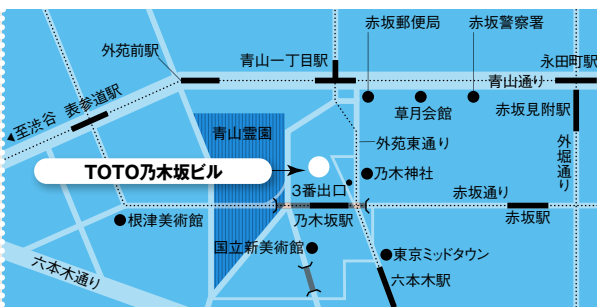
お申し込みはTOTO通信データ管理室まで

Tel / 093 (513) 6234

e-mail / toto\_tsushin@jlink-net.com

\*法人あての送付となります。

Bookshop TOTO	TOTO出版	セラトレーディング
Bookshop TOTO	TOTO Publishing	Cera Trading
● 所在地／東京都港区南青山1-24-3 TOTO乃木坂ビル2階 ● 電話／03(3402)1525 ● 定休日／月曜日・祝日・「TOTOギャラリー・間」休館中の土曜日・日曜日・夏期休暇・年末年始	● 所在地／東京都港区南青山1-24-3 TOTO乃木坂ビル2階 ● 電話／03(3402)7138 ● ファクス／03(3402)7187 ● 全国の書店でお求めください。直営店Bookshop TOTOでもお求められます。書店遠隔の方はお問い合わせください。	● 所在地／東京都港区南青山1-24-3 TOTO乃木坂ビル1階・地下1階 ● 電話／03(3402)7134 ● ファクス／03(3796)6155 ● 営業時間／10:00~17:00 ● 定休日／月曜日・祝日・夏期休暇・年末年始



アクセス／●東京メトロ千代田線「乃木坂」駅下車3番出口徒歩1分 ●都営地下鉄大江戸線「六本木」駅下車徒歩6分 ●東京メトロ日比谷線「六本木」駅下車徒歩7分 ●東京メトロ銀座線・半蔵門線、都営地下鉄大江戸線「青山一丁目」駅下車徒歩7分

次号『TOTO通信』は2016年10月上旬発行の予定です。



## 美しいものを使うよろこび

美しさにふれると、心が踊る。  
美しいものがあるだけで、心が潤う。

THE CRASSO —  
美しいキッチンと、使うよろこびをあなたに。

SYSTEM KITCHEN

NEW  
2016年8月  
発売予定

# THE CRASSO

TOTO技術相談室

電話:0570-01-1010 FAX:0570-01-2111

受付時間:(平日)9:00~18:00 (土曜日)9:00~17:00(日・祝・夏期休暇・年末年始を除く)

専門家コーナー「COM-ET」

[www.com-et.com](http://www.com-et.com)

TOTOホームページ

[www.toto.co.jp](http://www.toto.co.jp)

『TOTO通信』のお届け先などの変更はお客様No.(封筒の宛て名ラベル右上に記載)も併せて下記までご連絡ください。  
TOTOカタログセンター内 TOTO通信データ管理室 TEL.093(513)6234 FAX.093(571)0999

\*当社ならびに当社グループ会社は、個人情報の保護を社会的責務と考えます。お客様からお預かりした個人情報は、  
関連法令および社内諸規定に基づき慎重かつ適切に取り扱います。詳細はTOTOウェブサイト([www.toto.co.jp/](http://www.toto.co.jp/))をご覧ください。



この情報誌には植物性・森林認証材などを原材料とする環境に配慮した用紙をらびに印刷インク工業協会認定の植物性インクを主に使用しています。